100th

NHKSO

NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

Philharmony

December 2026

NHK Symphony Orchestra, Tokyo

12



終演時のカーテンコールを撮影していただけます

スマートフォンやコンパクトデジタルカメラなどで撮影していただけます。
SNSでシェアする際には、ハッシュタグ「#N響」「#nhkso」の追加をぜひお願いいたします。
ほかのお客様の映り込みにはご注意ください。

※撮影はご自席からとし、手を高く上げる、望遠レンズや三脚を使用するなど、
周囲のお客様の迷惑となるような行為はお控えください

You are free to take stage photos during the curtain calls at the end of the performance.

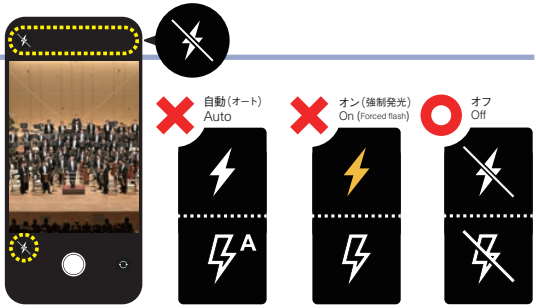
You can take photos with your smartphone or compact digital camera.
When you share the photos on social media, please add #nhkso.
Be careful to avoid accidentally including any audience members in your photos.

「フラッシュ」オフ設定確認のお願い

撮影前に、スマートフォンのフラッシュ設定が「オフ」になっているかご確認をお願いいたします。

Set your device to “flash off mode.”

Make sure that your smartphone is on “flash off mode” before taking photos.



スマートフォンのフラッシュをオフにする方法 | 多くの機種では、カメラ撮影の画面の四隅のどこかに、フラッシュの状態を示す⚡（カミナリマーク）を含むアイコンが表示されています。これをタップすることで、「オン（強制発光）」「自動（オート）」「オフ」に変更できます。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。ご協力をお願いいたします。

詳しくは56ページをご覧ください

こちらのQRコードからアンケートページへアクセスできます

https://www.nhkso.or.jp/enquete.html

お客様へのお願い

Please kindly keep in mind the following:

公演中は携帯電話、時計のアラーム等は必ずお切りください
Be sure to set your phone to silent mode and turn off your watch alarm etc. during the performance.

私語、パンフレットをめくる音など、物音が出ないようご配慮ください
Please refrain from making any noise, such as engaging in private conversations or turning booklet pages.

大きく手足を揺らしたり体を乗り出したりするなど他のお客様にご迷惑となる行為はおやめください
Do not disturb others by overly swaying your body.

発熱等の体調不良時にはご来場をお控えください
Please refrain from visiting the concert hall if you have a fever or feel unwell.

演奏は最後の余韻までお楽しみください
Please wait until the performance has completed before clapping hands or shouting “Bravo.”

演奏中の入退場はご遠慮ください
Please refrain from entering or leaving your seat during the performance.

適切な手指の消毒、咳エチケットにご協力ください
Your proper hand disinfection and cough etiquette are highly appreciated.

場内での録画、録音、写真撮影は固くお断りいたします（終演時のカーテンコールをのぞく）
Video or audio recordings, and still photography at the auditorium are strictly prohibited during the performance. (Except at the time of the curtain calls at the end of the concert.)

補聴器が正しく装着されているかご確認ください
Please make sure that your hearing aids are properly fitted.

NHK交響楽団
カスタマー・ハラスメントに対する基本方針（PDF）

トゥガン・ソヒエフ NHK交響楽団音楽監督に就任へ

NHK交響楽団は、長年にわたって共演を重ねてきた指揮者、トゥガン・ソヒエフを、2028–29シーズンが開幕する2028年9月より、音楽監督に迎えることとなりました。

ソヒエフが初めてN響のステージに立ったのは、2008年10月のこと。ショスタコーヴィチ《交響曲第5番》などで鮮烈な演奏を披露しました。
その後2013年11月に定期公演初登場。以降2016年（1月、10月）、2017年、2019年（1月、10月）、2023年、2024年、2025年、2026年1月と、継続して共演を重ねてきました。幅広いレパートリーで生み出してきた数々の演奏は、聴衆のみならず、オーケストラのメンバーにも強い印象を残しています。

2028–29 シーズンから


© Taichi Nishimaki

約20年にわたる共演を通じて育まれてきた両者の深い音楽的信頼関係が、今回の音楽監督就任へと結実しました。

ソヒエフは、世界各地のオーケストラ、歌劇場でも活躍してきました。ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、ドレスデン国立管弦楽団、バイエルン放送交響楽団、ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団、フィラデルフィア管弦楽団、シカゴ交響楽団をはじめ、ウィーン国立歌劇場、パリ・オペラ座などにも数多く登場しています。トゥールーズ・キャピトル国立管弦楽団の音楽監督、ボリショイ劇場の音楽監督・首席指揮者、ベルリン・ドイツ交響楽団の首席指揮者・芸術監督を歴任。2026–27シーズンから、スイス・ロマンド管弦楽団の首席指揮者・アーティスティック・アドバイザーも務めています。2027年1月には、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の「ニューイヤーコンサート」を指揮することも決まっています。

ソヒエフとの契約は2028年9月から3年間。
創立100年を迎え、次の100年に向けて歩み始めたN響とトゥガン・ソヒエフが共に築く新たな時代に、どうぞご期待ください。

トゥガン・ソヒエフからのメッセージを N響ホームページでご覧いただけます。

Special Thanks



NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

特別支援	With Special Support of
岩谷産業株式会社	Iwatani Corporation
三菱地所株式会社	Mitsubishi Estate Co., Ltd.
MIZUHO みずほ銀行	Mizuho Bank, Ltd.
公益財団法人 渋谷育英会	Shibuya Scholarship Foundation
東日本旅客鉄道株式会社	East Japan Railway Company
NTT EAST	NTT East, Inc.
東京海上ホールディングス株式会社	Tokio Marine Holdings, Inc.
株式会社ポケモン	The Pokémon Company

ＮＨＫ交響楽団は上記の各社から特別支援をいただいております。

2025年5月、マーラー・フェスティバル（アムステルダム・コンセルトヘボウ）にて ©Milagro Elstak



Photo：THE NEW BMW 740 Excellence

※写真の車は日本仕様と異なります。また、オプション装備等を含む場合があります。

FOR MORE INFORMATION

THE NEW 7

BAYERISCHE MOTOREN WERKE

世界をつなぐ、あたらしい空へ。



ANA Inspiration of JAPAN | STAR ALLIANCE

www.ana.co.jp

YAMAHA
Make Waves



私と、響き合う。

「ほしい音は、私が表現したいことをかなえてくれる音。」
ヤマハが新しいCFXに込めた設計思想「ユニボディコンセプト」は、
すべてが、ピアニストの想いを実現するためにあります。
ピアノ自身が弾く者の意思を感じているかのように反応し、
演奏者と楽器が一体となって響き合うことで生まれた音が、
コンサートホールの空間を満たしていく。
これこそ、ヤマハが追い求めてきた瞬間に他なりません。
人の心を動かす音は、ピアノだけが奏でるものではなく、
ピアニストとともに作りあげていくものだから。

CFX

Yamaha Concert Grand Piano

旬のピアニスト情報が満載
Pianist Lounge.

ヤマハピアニストラウンジ　検索

https://jp.yamaha.com/sp/pianist-lounge/

ヤマハ株式会社

ぴあがないと、笑えない。
ぴあがないと、泣けない。
ぴあがないと、踊れない。
ぴあがないと、叫べない。
ぴあがないと、ヘドバンできない。
ぴあがないと、キレーな涙流せない。
ぴあがないと、ドキドキしない。
ぴあがないと、性別なんて越えられない。
ぴあがないと、国境なんて越えられない。
ぴあがないと、年齢なんて越えられない。
ぴあがないと、わたしを越えられない。
ぴあがないと、世界が新しくならない。
ぴあがないと、生き生きできない。
ぴあがないと、遊べない。
ぴあがないと、感じる心、動かない。

Life is Pure.

ぴあがあるから、ひとりひとりが生き生きと。

ぴあ

PROGRAM

A

第2077回
NHKホール
11/28 土 6:00pm
11/29 日 2:00pm

指揮	シャルル・デュトワ
ピアノ	マルタ・アルゲリッチ
コンサートマスター	長原幸太

協力:株式会社ダブルスタンダード

N響100年特別企画

ファリャ
バレエ組曲「三角帽子」第2番［12′］
Ⅰ 近所の人たちの踊り
Ⅱ 粉屋の踊り
Ⅲ 終幕の踊り

ラヴェル
ピアノ協奏曲 ト長調［22′］
Ⅰ アレグラメンテ
Ⅱ アダージョ・アッサイ
Ⅲ プレスト

――休憩（20分）――

ベルリオーズ
幻想交響曲 作品14［50′］
Ⅰ 夢と情熱
Ⅱ 舞踏会
Ⅲ 野の風景
Ⅳ 断頭台への行進
Ⅴ ワルプルギスの夜の夢

※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは56ページをご覧ください

こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます

https://www.nhkso.or.jp/enquete.html

Artist Profiles

シャルル・デュトワ（指揮）



かつてN響を率いた際に「デュトワ効果」で注目を浴び、N響のレベルをさらなる高みに引き上げた稀代（きだい）のオーケストラ・ビルダー。色彩感あふれる作品でみせる熟練のタクトは、オーケストラの音色を一変させるマジックを発揮する。8年ぶりの定期公演登場となった昨年の11月A・Cプログラムでは、往時と変わらないスマートな棒さばきで光彩陸離たる音楽を奏で、圧倒的な存在感を示した。今年で卒寿の巨匠、ひとつひとつの舞台が重みを増す。

1936年スイス生まれ。ローザンヌ音楽院やジュネーヴ音楽院で学び、キャリアを重ねた。1977年にモントリオール交響楽団の音楽監督に就くと短時日で世界的な水準へ育て、1980年代からのCD時代に大量の録音をリリースして名声を確立した。ことにフランス系の作品やロシアもので、他の追随を許さない定評がある。

N響には1987年9月に初登場し、1996年に常任指揮者、1998年に音楽監督へ就いた。卓越したバトンでN響に洗練された色合いを加え、新時代をもたらした。2003年に名誉音楽監督。フランス国立管弦楽団やフィラデルフィア管弦楽団、ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団でも主要なポストを務めた。

今回は2つのプログラムを振る。ひとつは得意なフランス／スペインもの。もうひとつは重要な「ベートーヴェン交響曲全曲演奏」シリーズのひとこま。緊密なコラボレーションに胸がふくらむ。

［宮下博／音楽ジャーナリスト］

マルタ・アルゲリッチ（ピアノ）



マルタ・アルゲリッチは1941年6月5日、アルゼンチンのブエノスアイレス生まれ。2歳8か月でピアノを弾き始め、5歳から故郷の名指導者ヴィンチェンツォ・スカラムッツァに師事。ここで才能を開花させ、8歳でベートーヴェンの《ピアノ協奏曲第1番》、9歳でモーツァルトの《ピアノ協奏曲第20番》とバッハの《フランス組曲第5番》を演奏し、人々を驚嘆させる。1955年にヨーロッパへ家族で移住し、フリードリヒ・グルダ、ニキタ・マガロフ、アルトゥーロ・ベネデッティ・ミケランジェリから多くを学ぶ。1965年、ショパン国際ピアノコンクールに参加し、優勝の栄冠に輝いた。その演奏はこの上ない輝きと燃え立つような音色、自由奔放さに満ち、《スケルツォ第3番》が出色だった。以後、世界各地で演奏。N響との直近の共演はデュトワとの海外公演で、刺激的なプロコフィエフの《ピアノ協奏曲第3番》を披露した。ラヴェルの《ピアノ協奏曲》も得意とし、きらめくような響きと粋で洒脱（しゃだつ）なピアニズムが存分に楽しめる。すばらしくコントロールされた指から発散される音楽は、すみずみまで強烈な個性が息づいている。

［伊熊よし子／音楽評論家］

N響創立100年の節目に、シャルル・デュトワとマルタ・アルゲリッチが共演する。ラヴェルの《ピアノ協奏曲ト長調》は、1959年にデュトワがローザンヌ室内管弦楽団でプロ指揮者デビューを果たした時、アルゲリッチと共演した思い出の1曲だ。さらに2人は、1996年におこなわれた、N響創立70周年とデュトワのN響常任指揮者就任を記念した演奏会でショパンのピアノ協奏曲を共演しており、この演奏会の最後の曲が、ベルリオーズの《幻想交響曲》だった。長い道のりを音楽とともに歩んできた2人の歴史が、2026年のN響で、新たに一期一会の音楽へと結実する。

ファリャ

バレエ組曲「三角帽子」第2番

スペイン南端の都市カディスに生まれたマヌエル・デ・ファリャ（1876〜1946）がパリへ渡ったのは、1907年夏のことである。以来、戦禍を避けてマドリードに戻る1914年までの7年間をパリで過ごした。1910年、バレエ・リュス（ロシア・バレエ団）がパリで初演したストラヴィンスキーの《火の鳥》は、新時代の幕開けとなった。ファリャもパリでディアギレフと知り合い、第1次世界大戦中にスペインで、国王の後援を得てバレエ・リュスが公演をした際に交流を深めた。1917年に、ディアギレフ、振付師・ダンサーのレオニード・マシーンらが、ファリャの案内で、グラナダをはじめとするスペイン各地を巡ったときの記録が残されている。マシーンはそこでスペインの音楽とアンダルシアの舞踊を学び、独自にひねりと動きを加えた振付を考案した。一方、ファリャはパントマイム劇「代官と粉屋の女房」のために作曲した音楽を大きく改作。こうして誕生したのが、バレエ《三角帽子》である。初演は1919年、ロンドンのアルハンブラ劇場で行われ、ピカソが美術と衣装を担当した。

原作は、19世紀スペインの作家ペドロ・アントニオ・デ・アラルコンがアンダルシアの民話をもとに執筆した短編小説である。村の権力者である代官が粉屋の女房に言い寄り、粉屋は代官の罠でとらえられる。しかし最後は誤解が解け、代官がこらしめられる。「三角帽子」は代官が被る帽子として、その権力を象徴している。スペインの村人たちの生活を表現したさまざまな民俗舞踊が散りばめられており、ファリャは主要部分を抜粋して演奏会用の《組曲第1番》《第2番》を編成した。本日演奏される《第2番》は、3拍子のリズムが特徴的な**〈近所の人たちの踊り〉**（セギディーリャ）、フラメンコの一形式である力強い**〈粉屋の踊り〉**（ファルーカ）、テンポの速い華やかな**〈終幕の踊り〉**（ホタ）からなる。バレエ初演では、粉屋をマシーンが、粉屋の女房を、《火の鳥》初演でも表題役を務めたタマーラ・カルサヴィナが演じた。

作曲年代	[バレエ全曲]1917〜1919年　[組曲第2番]バレエ全曲から編成、1921年出版
初演	[バレエ全曲]1919年7月22日、ロンドン、アルハンブラ劇場、エルネスト・アンセルメ指揮、ロシア・バレエ団
楽器編成	フルート2、ピッコロ1、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、テューバ1、ティンパニ、大太鼓、シンバル、小太鼓、トライアングル、カスタネット、銅鑼、シロフォン、ピアノ(チェレスタ)、ハープ1、弦楽

ラヴェル

ピアノ協奏曲 ト長調

20世紀初頭のパリは、異文化のリズムに飽くなき関心を抱いていた。スペインの民俗舞踊のリズム、ロシア・バレエ団とストラヴィンスキーがもたらした原始的なリズム、そしてアメリカのジャズ。モーリス・ラヴェル(1875〜1937)がジャズの魅力の虜となったのは、こうした時代の必然の流れだった。1927年12月、フランスから北米演奏旅行に船で発ったラヴェルは、1928年1月ニューヨークに到着する。この地で交流を深めたのが、すでに《ラプソディー・イン・ブルー》で名声を得ていたジョージ・ガーシュウィンである。帰国後ラヴェルはピアノ協奏曲の作曲にとりかかる。ジャズの要素は同時進行で作曲していた《左手のための協奏曲》の方にずっと多く含まれていると作曲家は語るが、《ピアノ協奏曲ト長調》の第1楽章においてもその影響は顕著である。新時代の活気に励まされたラヴェルは、あたかもこれまでの人生を懐古するかのように、古典的形式や自身のルーツであるスペインの主題(母方はバスク系だった)、過去の自作や尊敬する作曲家たちへのオマージュを織り込んだ。1932年のインタビューの中で、ラヴェルはこの協奏曲について、「私の意志をコントロールすることに最も成功した作品のひとつだと思う」と語った。

第1楽章(アレグラメンテ、ト長調、2/2拍子) 冒頭のピッコロによる第1主題はバスク地方の笛の響きであるとも指摘される。多彩な打楽器と幻想的な音色、ピアノのジャズ風ひとり語りのような第2主題など、時空を自由に移動しながら、全体としてはソナタ形式のような構成をもつ。**第2楽章**(アダージョ・アッサイ、ホ長調、3/4拍子)は、エリック・サティの世界と自身の《亡き王女のためのパヴァーヌ》を融合させたような甘美な緩徐楽章。**第3楽章**(プレスト、ト長調、2/4拍子)は、技巧を尽くした純粋なる音のぶつかり合いの快楽を追求するブラヴーラ(華麗な)協奏曲の典型。冒頭と結尾が同じト長調の和音とリズムで円環を結んでいる。

作曲年代	1929〜1931年
初演	1932年1月14日、マルグリット・ロンによるピアノ独奏、作曲者自身の指揮、ラムルー管弦楽団、パリ、サル・プレイエル
楽器編成	フルート1、ピッコロ1、オーボエ1、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット1、Esクラリネット1、ファゴット2、ホルン2、トランペット1、トロンボーン1、ティンパニ、大太鼓、シンバル、小太鼓、トライアングル、ウッドブロック、ムチ、銅鑼、ハープ1、弦楽、ピアノ・ソロ

ベルリオーズ

幻想交響曲 作品14

1830年12月5日、パリ音楽院で行われたエクトル・ベルリオーズ（1803〜1869）の《幻想交響曲》初演は、同年のローマ賞で念願の大賞を受賞したベルリオーズ自身が企画した、自作による演奏会だった。受賞作のカンタータ《サルダナパールの死》からも、受賞後に補筆された、炎上と宮殿の崩壊を描く終結部が演奏された。会場のコンサートホールは馬蹄形の客席を備えた劇場のような造りで、音楽と演劇を学ぶ学生の研鑽の場である一方、指揮者のアブネックが、集中的にベートーヴェンの交響曲を紹介する場でもあった。フランス・オペラの劇的な管弦楽法と交響曲の形式を兼ね備えた《幻想交響曲》は、こうした環境から生まれた。さらに、シェークスピア劇を演じていたアイルランド出身の女優、ハリエット・スミッソンへの恋心といった自己の内面も加えられ、1832年の再演時に初めてこの曲を聴いたスミッソンとベルリオーズは、翌年、結婚したのだった。

各楽章には作曲者による標題と物語が付けられている。主人公の「芸術家」そのものを表す主題は、音楽のなかには現れないが、芸術家の脳裏から離れない「愛する女性」を表す旋律が、「イデー・フィクス（固定楽想）」として全曲を貫き、場面ごとに姿を変える。

第1楽章〈夢と情熱〉では、長い序奏のあと、フルートとヴァイオリンがユニゾンでイデー・フィクス（ソナタ形式の第1主題を兼ねる）を奏する。コーダにおいても、イデー・フィクスの断片や変形が余韻のように現れる。**第2楽章**〈舞踏会〉では、3拍子のワルツのなかに恋人の姿が見え隠れする。とりわけコーダでクラリネットによって奏されるイデー・フィクスは効果的だ。**第3楽章**〈野の風景〉では、序奏でイングリッシュ・ホルンと舞台裏のオーボエが2人の羊飼いによる笛の呼びかけとその応答を、また終結部で4台のティンパニが遠雷を表す。**第4楽章**〈断頭台への行進〉では、芸術家がアヘンを飲んで見た幻覚の中で、恋人を殺害した罪で処刑される。断頭の直前にクラリネットが奏するイデー・フィクスが一瞬よみがえる。**第5楽章**〈ワルプルギスの夜の夢〉では、クラリネットと小クラリネット（E♭管）による不気味に装飾されたイデー・フィクスが恋人の変容した姿を表し、鐘の音を合図に、低音のファゴットとオフィクレイド（今日ではテューバで代用）によって、死者のためのミサから《怒りの日》の旋律が奏される。ロンドによる魔女たちの宴に《怒りの日》が重ねられ、狂乱のうちに終幕となる。

作曲年代	1830年
初演	1830年12月5日、パリ音楽院コンサートホール（劇場）、フランソワ・アントワーヌ・アブネック指揮
楽器編成	フルート2（ピッコロ1）、オーボエ2（イングリッシュ・ホルン1）、クラリネット2（Esクラリネット1）、ファゴット4、ホルン4、トランペット2、コルネット2、トロンボーン3、テューバ2、ティンパニ（2組／最大4人で演奏）、大太鼓、シンバル、小太鼓、ハープ2、弦楽、バンダ：オーボエ1、鐘

A
2026 DECEMBER
［第2077回］

イラスト：IKE／文：松井治伸

ベルリオーズの《幻想交響曲》第5楽章〈ワルプルギスの夜の夢〉では、弔いの鐘が鳴ったあと低音楽器が恐ろしげな旋律を聴かせます。これは《怒りの日》（ディエス・イレ）と呼ばれる、グレゴリオ聖歌の旋律です。怒りの日とは、世界の終末にあらゆる人間が神の審判を受け、天国行きと地獄行きに選別される日のこと。ベルリオーズは《怒りの日》を使って、魔女や亡霊が登場する内容にうってつけの音楽を書きました。死の象徴とも言える《怒りの日》の旋律は、こののちリストやラフマニノフなど多くの作曲家も自作に使い、クラシック音楽のいわば定番のモティーフになっています。

《幻想交響曲》を不気味に彩る旋律

怒りの日



魔女たちの不気味な夜宴の夢を見る。響きわたる《怒りの日》の旋律が、死の影を色濃く投げかける

©IKE

PROGRAM

B

第2079回
サントリーホール
12/10 木 7:00pm
12/11 金 7:00pm

指揮	マキシム・エメリャニチェフ
チェロ	ニコラ・アルトシュテット
コンサートマスター	ジュリアン・ズルマン◆

◆**ジュリアン・ズルマン**：5歳よりヴァイオリンを始める。パリ国立高等音楽院卒業後にベルリン・ハンス・アイスラー音楽大学でドイツ国家演奏家資格を取得。ゲスト・コンサートマスターとしてロンドン交響楽団、水戸室内管弦楽団、スイス・ロマンド管弦楽団、パリ管弦楽団などと共演している。現在、小澤征爾スイス国際アカデミーの選考委員会責任者、小澤国際室内楽アカデミー奥志賀講師。パリ国立高等音楽院で後進の指導にもあたる。

モーツァルト
歌劇「魔笛」序曲［7′］

スルンカ
煙―チェロとオーケストラのための
(2025／2026)
［**NHK交響楽団100年記念委嘱作品／チェコ・フィルハーモニー管弦楽団 国際共同委嘱／世界初演**］［28′］

――**休憩(20分)**――

メンデルスゾーン
交響曲 第3番 イ短調 作品56
「スコットランド」［40′］
Ⅰ アンダンテ・コン・モート
―アレグロ・ウン・ポーコ・アジタート
Ⅱ ヴィヴァーチェ・ノン・トロッポ
Ⅲ アダージョ
Ⅳ アレグロ・ヴィヴァチッシモ

※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください
N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは56ページをご覧ください

こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます

https://www.nhkso.or.jp/enquete.html

マキシム・エメリャニチェフ（指揮）



1988年、ロシア生まれのマキシム・エメリャニチェフは、12歳の若さで指揮者デビューを飾り、モスクワ音楽院でゲンナジー・ロジェストヴェンスキーに指揮を学んだほか、マリア・ウスペンスカヤのもとチェンバロとフォルテピアノも専攻した。指揮と鍵盤楽器の両輪で国際的な活動を展開し、バロックからコンテンポラリーまで幅広いレパートリーを誇る。イタリアの古楽アンサンブル「イル・ポモ・ドーロ」（2013年～）とスコットランド室内管弦楽団（2019年～）の首席指揮者を兼任するエメリャニチェフにとって、古楽とモダンを隔てる壁はない。2025年には北欧の名門、スウェーデン放送交響楽団の首席客演指揮者にも迎えられた。

日本でもすでに東京交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、読売日本交響楽団に客演して大きな反響を巻き起こしている。NHK交響楽団とは今回の定期公演が初共演となる。2022年10月のベルリン・フィルハーモニー管弦楽団へのデビューでも取り上げたモーツァルトは、エメリャニチェフが深い共感を寄せる作曲家である。スコットランド室内管弦楽団との録音が絶賛されたメンデルスゾーン《交響曲第3番》や、近年共演を重ねているニコラ・アルトシュテットとのスルンカ《煙―チェロとオーケストラのための》の世界初演を組み合わせたプログラムは、彼の才気を多様な角度から照らし出すものになるだろう。

［八木宏之／音楽評論家］

ニコラ・アルトシュテット（チェロ）



表現の引き出しは数知れず、さらにその多才さにかけては現代随一のチェリストは、1982年、ドイツ人とフランス人の両親のもとにハイデルベルクで生まれた。デトモルト音楽大学やバーゼル音楽院でチェロを学び、ベルリンではペルガメンシコフに師事、その最後の弟子に。2010年のルツェルン音楽祭において、ドゥダメル指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団と共演したシューマンの《チェロ協奏曲》が高く評価され、その後の輝かしいキャリアの出発点となる。

巧みな技術と豊かな表現力をもつソリストとして活躍。その一方、2012年までにロッケンハウス室内楽フェスティバルの芸術監督をクレーメルから、2014年にはハイドン・フィルハーモニーの音楽監督を創設者アダム・フィッシャーからそれぞれ引き継いだ。

古楽から現代曲まで、そのレパートリーは広大だ。室内楽奏者としては、コパチンスカヤ、サイ、アントニーニ、エベーヌ四重奏団らと多く共演を重ね、周りを生かしつつ自身の音楽性も深く印象付けた。

エメリャニチェフとの共演も多い。息の合ったこのコンビは今回、現代チェコの作曲家スルンカのN響委嘱作品を世界初演する。初演にあたって作曲家が推薦したのがこのチェリストだ。

［鈴木淳史／音楽評論家］

「ラスト」づくし……。本日の曲目は、これに尽きる。というのも英語で「ラスト」とは、元々「最新の」という意味だからだ。そこに定冠詞がついて「ザ・ラスト」となると、生涯や物事の終わりに位置する最新／最後のものという意味になる。今回は、モーツァルトやメンデルスゾーンにとっては「ザ・ラスト」となった作品の間に、スルンカの「新作」が配置される。しかも、N響初登場のエメリャニチェフを指揮台に迎えての、一期一会の演奏会である。

モーツァルト

歌劇「魔笛」序曲

ウォルフガング・アマデウス・モーツァルト（1756～1791）が、過労等が原因で35歳で急死する直前に書いた《歌劇「魔笛」》は、彼にとって文字通り「最後」の歌劇となった作品だ。ただし、イタリア語の台本を基に書かれることの多かった従来型の「歌劇」ではなく、ドイツ語の歌と台詞（せりふ）が共存する、「ジングシュピール（「歌芝居」という意味）」という形式で作られている。

このジングシュピールだが、これは当時ドイツ語圏で流行していた新たな形の歌劇のこと。背後には、特権階級の文化だったオペラを、市民階級に対し彼らが親しみやすいドイツ語と台詞を用いて開放することで、市民の積極的な社会参画を促そうとした改革派の君主たちの文化政策があった。またそうした文化政策の本丸だったウィーンでは、中心街以外の場所にも市民階級向けの新たな私立劇場が造られ、ジングシュピールが盛んに上演されてゆく。魔法の笛と鈴が登場する冒険ファンタジーとでも呼ぶべき《魔笛》も、そうした私立劇場のひとつだったフライハウス劇場からの依頼によって作られた。

その冒頭部分を飾る序曲だが、序奏の部分では、《魔笛》でも重要な役割を果たす闇を打ち払う光の教団（市民階級の勃興を背景に興隆し、モーツァルトも加入していた思想結社「フリーメーソン」がモデルとなっている）の入会儀式を彷彿（ほうふつ）させる、厳粛で神々しい響きが溢（あふ）れる。それとは対照的に主部に入ると、スピーディかつ陽気な音楽が、煌（きら）めくように転げまわり、これから始まる新たな時代への期待感を凝縮したような世界が弾（はじ）ける。

作曲年代	1791年
初演	1791年9月30日、作曲者自身の指揮、フライハウス劇場管弦楽団、フライハウス劇場（ヴィーデン劇場）、ウィーン
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ、弦楽

スルンカ

煙―チェロとオーケストラのための（2025／2026）

［NHK交響楽団100年記念委嘱作品／チェコ・フィルハーモニー管弦楽団 国際共同委嘱／世界初演］

ミロスラフ・スルンカ（1975～）は、チェコのプラハに生まれた作曲家、音楽学者。故郷のカレル大学をはじめ、ヨーロッパ各地で研鑽を積んで頭角を現してゆく中、パリのIRCAM（フランス国立音楽音響研究所）に学んでいた2004年頃から活動を本格化させる。とりわけ、バイエルン国立歌劇場からの委嘱を受けて2016年に初演された《オペラ「南極」》は、アムンゼンとスコットによる南極点先着競争の様子をステージ上で同時に進行させる独創的な内容で、世界的な注目を浴びた。

なおスルンカとN響との関係は、2023年の「Music Tomorrow」に始まる。コロナ禍の中で作曲が進められたオーケストラ作品《スーパーオーガニズム》の世界初演がそれ。この時は、蜂や蟻などの生物集団の動きからヒントを得、それをオーケストラの響きに応用させた内容で話題を呼んだ。そもそもスルンカのオーケストラ作品は、細部を穿つミクロ的な要素と、オーケストラならではの多彩でダイナミックな響きを念頭に置いたマクロ的な要素の衝突と融合が特徴だ。本日初演される彼の最新作では、「協奏曲」というフォーマットを用いてどのような世界が提示されるのだろう。

作曲年代	2026年
初演	2026年12月10・11日、マキシム・エメリャニチェフ指揮、ニコラ・アルトシュテットのチェロ独奏、NHK交響楽団、サントリーホール
楽器編成	フルート3（ピッコロ1）、オーボエ3、クラリネット3、ファゴット3、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、大太鼓、シンバル、アンティーク・シンバル、グロッケンシュピール、ヴィブラフォーン、マリンバ、ウォーターフォン、ブリスターパック（フルート以外の木管楽器、ホルン、トランペット、打楽器奏者が演奏）、ピアノ、アコーディオン2、弦楽、チェロ・ソロ

メンデルスゾーン

交響曲 第3番 イ短調 作品56「スコットランド」

モーツァルトを思い起こさせる早熟の天才、と謳われたフェリックス・メンデルスゾーン・バルトルディ（1809～1847）。モーツァルトと同様「速筆伝説」でもつとに有名だったが、この曲は着想から完成に至るまで、実に10年以上もの歳月がかかっている。

1829年、メンデルスゾーンは故郷ドイツをあとに、スコットランドを初めて訪れる。なおスコットランドは、18世紀末から19世紀にかけて、同地で活躍した文学者のウォルター・スコット（1771～1832）の小説や詩をきっかけに、近代的なレジャー観光地として注目を浴びつつあった。

メンデルスゾーンも、そうしたスコットランド・ブームの中で彼の地を訪問。かつて栄華を誇ったスチュアート朝ゆかりの廃墟(はいきょ)で当交響曲の冒頭部分の旋律を思いついたことが、作品誕生のきっかけとなった。ただしそれ以降、メンデルスゾーン自身が演奏活動で多忙になったり、他の大作を手掛けたりしたことから作曲は中断され、1842年にようやく全曲が完成。当時彼が本拠地としていたドイツのライプツィヒで初演される。

さらに同年にイギリス訪問を果たしたメンデルスゾーンは、時のイギリス女王ヴィクトリア(1819〜1901)に謁見し、この曲を女王に献呈する許可を得た。こうして翌1843年に出版された楽譜では、1842年初演当時のものに比べると、小節数やオーケストレーション、両端楽章の構成に改訂が施されている(なお本日はそれを基に、イギリスの音楽家クリストファー・ホグウッド〔1941〜2014〕が校訂をおこなった楽譜が用いられる予定だ)。

なお完成が遅れた理由には、この作品が持つ特殊性も大きく影響しているのだろう。何しろ、最初に示される件の主題から始まり、全曲が悲しみに満ちている。第2楽章は一瞬明るさが輝くが、それも夢幻のごとく消え去り、葬送行進曲風の楽想が中間部に現れる物悲しい第3楽章が続く。光がようやく射し込んでくるのは、曲の結論部分ともいえる第4楽章の最後だが、例えば往年の指揮者オットー・クレンペラー(1885〜1973)のように、この部分をとってつけたようだと考える見解も存在するほど。19世紀の交響曲にしばしばみられる「闘争→勝利」型ではなく、陽光が現れそうで現れず、幻の太陽が霧の彼方にかき消えてゆくような斬新な音楽表現が、作品のほぼ全編にわたって張り巡らされているがゆえの見解に他ならない。

なおメンデルスゾーンは、番号付きの交響曲を5曲書いており、出版の経緯から当作品は「交響曲第3番」となっているが、成立年代から言うと、実はメンデルスゾーンが手掛けた最後の交響曲である。また「スコットランド」というタイトル自体、彼が公式に付けたものではない。

作曲年代	1829〜1842年(1842年3月〜1843年3月に改訂)
初演	1842年3月3日、作曲者自身の指揮、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス・ホール
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、ティンパニ、弦楽

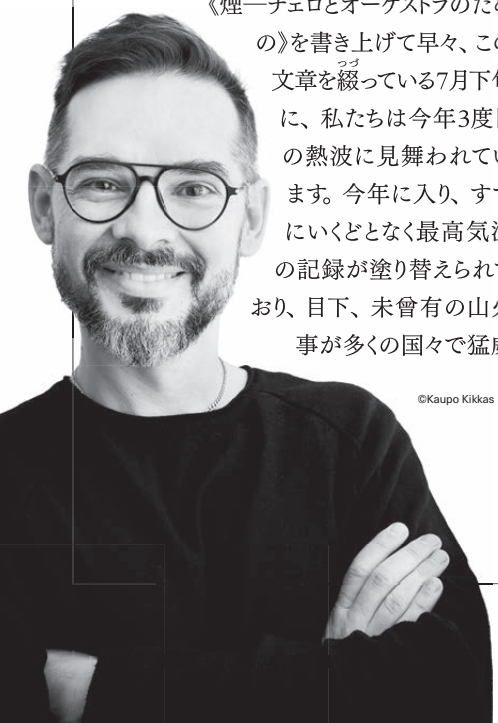
ミロスラフ・スルンカからのメッセージ

《煙―チェロとオーケストラのための》世界初演によせて

本公演にて、NHK交響楽団100年記念委嘱作品
ミロスラフ・スルンカ《煙―チェロとオーケストラのための》が世界初演されます。
スルンカ氏本人からメッセージが届きましたのでご紹介します。

2018年にロサンゼルス・フィルハーモニックの創立100年を記念して《オーバーヒーティング》を作曲した私は、カリフォルニアでの世界初演のさなかに、地平線に広がる大規模な山火事を見つめながら、こう考えていました――私たちは、このような出来事を教訓にして新たな一歩を踏みだすのだろうと。

しかし、それは甘い考えでした。
関心は低いままのようです。


©Kaupo Kikkas

《煙―チェロとオーケストラのための》を書き上げて早々、この文章を綴(つづ)っている7月下旬に、私たちは今年3度目の熱波に見舞われています。今年に入り、すでにいくどとなく最高気温の記録が塗り替えられており、目下、未曾有の山火事が多くの国々で猛威を振るっています。

ここ数年間の地球の衛星画像はすべて、インターネット上で誰でも閲覧することができます。

それらの画像★には、山火事の煙が鮮明に写っています。

このように、地球温暖化は宇宙から明瞭に見て取れますが、どういうわけか、私たちの意識を十分に変えるほど明瞭には見えていないようです。

私たちは日々の暮らしのなかで、「喪失」の概念と静かに闘っています。それは、このあまりに重大な問題を解決しようとするとき、避けては通れない概念です。

気候変動は構造的変化です。

私は、構造的変化そのものを自分の音楽に落とし込みます。

ある題材を自分の作品と結びつけようとするとき、いつも私は、作品の内部構造と関連づけます。私が第一に求めるのは政治的なメッセージではなく、その題材が音にもたらす構造的な影響なのです。

ミロスラフ・スルンカ｜1975年プラハ出身。6歳でヴァイオリンを始め、カレル大学（音楽学）、プラハ舞台芸術アカデミー（作曲）を経てフンボルト大学、パリ国立高等音楽院（2001）でも学ぶ。エルンスト・フォン・ジーメンス音楽財団奨励賞を受賞（2009）。2016年にバイエルン国立歌劇場で初演されたオペラ《南極―2部からなる二重のオペラ》の成功により一挙に名声を高めた。ケルン音楽舞踊大学教授（2019～）。N響が初めてスルンカの作品を取り上げたのは2023年のこと。国際共同委嘱作《スーパーオーガニズム》（2022）の世界初演を担い、これが今回の100年記念作品《煙》の委嘱へとつながった。

私は、音楽の構造が秘める可能性に深い関心を寄せています。

その可能性は、昨今の高度なコンピュータ技術によって、いま再び新たな無限の広がりを得ているように思います。

煙は、きわめて興味深い構造をしています。

煙は、風とその動きを可視化します。

風洞実験中の車の写真では、風の流れが二次元のように見えますが、実際に火から立ちのぼる煙は、ほれぼれするほどダイナミックで流動的な三次元の構造を取ります。それは、うねり方や形状や密度や速度を変えながら、時の経過とともに有機的に動きます。

これらすべての要素や可能性が、本作品の中核をなしています。

煙は、最初の火花から立ちのぼる一筋の細い線となって複雑にうねることもあれば、すべてを包み込む濃密な塊となって四方八方へ膨らむこともあります。

たゆたう煙は、いくども似たような形を取りながら動きを繰り返しますが、まったく同じ形を取ることはけっしてありません。

《煙》において、独奏チェロは、オーケストラの炎に対して煙のように作用します。

一筋の煙がかすかな火の発生を告げると、今度はその火が煙を飲み込む、というふうに。巨大な煙の雲が、燃え盛る炎をすっぽりと包み込むこともあるかもしれません。

煙と火は、長期的にも短期的にも互いを喰らい合います。

このように独奏チェロは、楽曲全体を通じて、オーケストラの燃えゆく響きの塊のなかで自ら発生し、消えていきます。

本作品は、そのような煙の特性を音に反映させ、3つの異なる「生成と消滅の循環」を展開します。

それらの構造自体が極端に、そして極限まで変容し、たんなる雑音と化します。まるで、背景の色にそのまま溶け込んでいく煙のように。

この煙と火の連鎖は、今後しばらく、途絶えることはほぼなさそうです。

2026年8月4日
ミロスラフ・スルンカ

*https://worldview.earthdata.nasa.gov/

イラスト：IKE／文：松井治伸
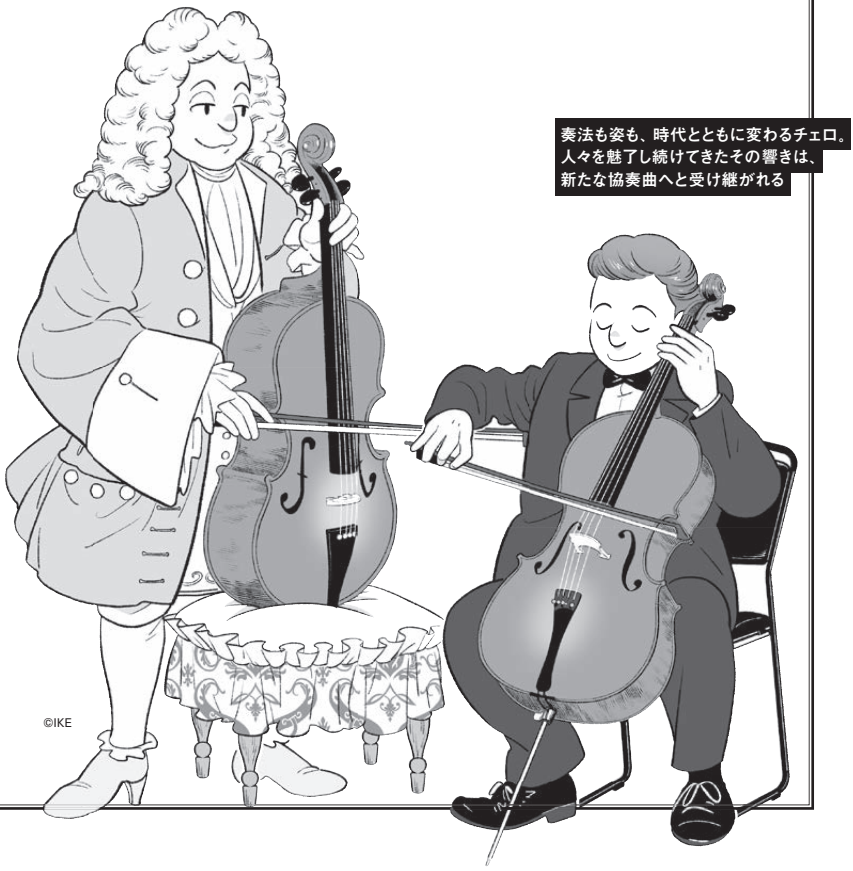
数々の名曲を生んだ魅惑の弦楽器・チェロ

主役から名脇役まで変幻自在！

チェロは、イタリア語の正式名「ヴィオロンチェロ」の略称です。「ヴィオロン（ヴィオローネ）」は大きな弦楽器のことですが、「チェロ」は「小さな」という意味。つまり、「小さな大きな弦楽器」!? 名前こそ「小さな」ですが、チェロはオーケストラの低音を支える大きな役割を担い、なおかつ、主役も張れる存在です。重厚な低音から神秘的な高音まで、幅広い音域を生かした多彩な表現力に魅せられて、18世紀以降、ハイドン、ドヴォルザーク、エルガーなど多くの作曲家がチェロ協奏曲を生み出してきました。そして今回、スルンカによる新たなチェロ協奏曲の誕生です。

B

2026 DECEMBER
［第2079回］



奏法も姿も、時代とともに変わるチェロ。人々を魅了し続けてきたその響きは、新たな協奏曲へと受け継がれる

©IKE

PROGRAM

C

第2078回
NHKホール
12/4 金 7:00pm
12/5 土 2:00pm

指揮　シャルル・デュトワ　プロフィールはp. 10

コンサートマスター　ジュリアン・ズルマン　プロフィールはp. 15

N響100年特別企画　**ベートーヴェン交響曲全曲演奏4**

ベートーヴェン
交響曲 第4番 変ロ長調 作品60［38′］

Ⅰ　アダージョ―アレグロ・ヴィヴァーチェ
Ⅱ　アダージョ
Ⅲ　アレグロ・ヴィヴァーチェ
　―ウン・ポーコ・メノ・アレグロ
Ⅳ　アレグロ・マ・ノン・トロッポ

――休憩（20分）――

ベートーヴェン
交響曲 第7番 イ長調 作品92［43′］

Ⅰ　ポーコ・ソステヌート―ヴィヴァーチェ
Ⅱ　アレグレット
Ⅲ　プレスト
Ⅳ　アレグロ・コン・ブリオ

※ 演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは56ページをご覧ください

こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます

https://www.nhkso.or.jp/enquete.html

長年N響と深いきずなを結んできたデュトワが導く端正な音色と軽快な響きは、N響創立100年を記念する本シリーズの大きな聴きどころ。古典的な均衡美と豊かな叙情性が調和した《第4番》と、圧倒的なリズムの躍動に満ちあふれた《第7番》。伝統的な2管編成の細部まで磨きあげられたアンサンブルは、ホールで聴くことで真価を発揮するだろう。長年の信頼関係のうえでつむぎだす自発的な音楽対話に、耳を傾けていただきたい。

ベートーヴェン

交響曲 第4番 変ロ長調 作品60

スケールの大きな《第3番「英雄」》のあとに書かれた《第4番》は、伝統への後退とみなされることが多い。しかし、古典的な枠組みへの立ちかえりは、ルートヴィヒ・ファン・ベートーヴェン（1770～1827）がみずからの音楽表現を広げるための自発的な試みといえる。第1楽章の神秘的な暗闇からほがらかな主部へいたる和声のドラマや、全曲をつらぬくモティーフの統一は、過去の踏襲にとどまらない飛躍を感じさせる。作曲家ウェーバーは、序奏のゆったりとした進行に対し「15分間に3つか4つの音しか聴こえない」と皮肉まじりに語ったが、この意外な音運びも大胆さのひとつかもしれない。

シューマンは本作を「2人の北国の巨人に挟まれた清楚（せいそ）なギリシアの乙女」と評した。この表現は、本作のかろやかさや端正さを表しているのだろう。ベルリオーズもまた「このスコアの全体的な性格には、活快で、機敏で、可憐（かれん）であり、あるいは天国的な甘美さがある」と称賛した。当時の音楽雑誌『総合音楽新聞』の批評家は、作品に満ちる明快さと親しみやすさを高く評価している。

かろやかさの背景には、作曲当時のベートーヴェンの私生活が影響しているともいわれる。彼は当時、ピアノの弟子であったヨゼフィーネ・フォン・ブルンスヴィクへ情熱を寄せていた。彼女へ宛てた手紙の中で、ベートーヴェンは「あぁ、いとしいJよ、異性としてあなたに惹（ひ）かれているのではなく、ただあなたという存在そのもの、そのあらゆる個性が私を引きよせるのです」と胸のうちを明かしている。「ハイリゲンシュタットの遺書」で吐露した危機をのりこえ、愛の希望が作品の表情に投影されているとも解釈できる。

楽器編成はフルートが1本に削減されるなど、初期の作品やハイドン、モーツァルトの時代に近い小規模なものである。しかし、木管楽器の協奏的な扱いやファゴットのソロ、ティンパニを独立したモティーフとして用いる手法など、斬新な試みがみられる。第1楽章の再現部直前におけるティンパニのロールによる長いクレッシェンドや、第2楽章をささえる特徴的な付点リズムのモティーフ、第4楽章の止まることなき16分音符とファゴットの高速ソロなども躍動感を生んでいる。

第1楽章　アダージョ、変ロ長調、2分の2拍子―アレグロ・ヴィヴァーチェ。ソナタ形式。
第2楽章　アダージョ、変ホ長調、4分の3拍子。展開部を欠くソナタ形式。
第3楽章　アレグロ・ヴィヴァーチェ、変ロ長調、4分の3拍子。トリオを2回置く5部形式。
第4楽章　アレグロ・マ・ノン・トロッポ、変ロ長調、4分の2拍子。ソナタ形式。

作曲年代	1806年
初演	1807年3月、ウィーンのロプコヴィツ侯爵邸での私的演奏会（公開初演は1807年11月15日、ブルク劇場、作曲者自身の指揮）
楽器編成	フルート1、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ、弦楽

ベートーヴェン

交響曲 第7番 イ長調 作品92

《第5番》と《第6番》の初演から3年以上が経過。そのあいだにベートーヴェンは、《ピアノ協奏曲第5番》や《ピアノ三重奏曲「大公」》などの作品を生みだしつつ、交響曲におけるあらたな表現の可能性を模索していた。直前にとりくんだ劇音楽（《エグモント》など）の経験や、テプリッツへの滞在などを経て心身の健康をとりもどし、1812年4月頃までに完成させた。

本作は、ハーナウ戦役の負傷兵救済のための慈善演奏会で《ウェリントンの勝利》とともに初演され、聴衆から熱狂的に迎えられた。当時のある批評は「主題がとても楽しくわかりやすいので、音楽愛好家は音楽の専門家でなくても楽しめるし、その美しさにとりこになる」と評している。のちにベルリオーズからは、技術、趣味、想像力、知識、霊感のすべてにおいて傑作であると、やはり絶賛された。作曲家自身も《第7番》をもっともすぐれた交響曲のひとつとみなしていた。

最大の特徴は、動機労作による統一性の追求から離れ、旋律の美しさやカンタービレの性格を前面にだしながらも、全曲をつらぬく強烈なリズムの推進力にある。20世紀後半の研究によれば、作曲中のベートーヴェンは、推進力あふれるリズムの配置やテンポ感やスケール感を緻密に調整していたことが判明している。自筆譜の第1楽章などには、小節の追加や削除をくり返すことで「アウフタクト」（フレーズを弱拍で始めること）を意図的に生みだし、エネルギーがたえまなく前へ前へと突きすすむ構造をつくりあげた跡がみられる。

第1楽章は長大な序奏で始まるが、主調のイ長調から遠い調（ハ長調やヘ長調など）が示され、はやくも冒険的。緩徐楽章の代わりを務める**第2楽章**は、哀愁を帯びたリズム・パターン（長・短・短・長・長）を特徴とする。初演時から人気を集め、たびたびアンコールが求められた。

第3楽章では伝統的な5度の調関係ではなく、ヘ長調とニ長調という3度関係の調が用いられる。このような調配置は、続くロマン派の作曲家に影響を与えた。**終楽章**では、低音でくりかえされるモティーフとアクセントの乱舞、そのエネルギーが、私たちの身体にダイレクトに作用する。

第1楽章　ポーコ・ソステヌート、イ長調、4分の4拍子―ヴィヴァーチェ、8分の6拍子。ソナタ形式。

第2楽章　アレグレット、イ短調、4分の2拍子。変奏曲形式。

第3楽章　プレスト、ヘ長調、4分の3拍子。複合3部形式。

第4楽章　アレグロ・コン・ブリオ、イ長調、4分の2拍子。ソナタ形式。

作曲年代	1811～1812年
初演	1813年12月8日、ウィーン大学講堂
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ、弦楽

イラスト：IKE／文：松井治伸

C
2026 DECEMBER
［第2078回］



こだわりの一杯に満足気なベートーヴェン。
よく見てきっちり数えて……
あ、1粒落ちていますよ!?

©IKE

「楽聖」ベートーヴェンのこだわり

コーヒー

ベートーヴェンはコーヒーをこよなく愛していました。17世紀にイスラム圏からヨーロッパに伝わったコーヒーは、ベートーヴェンの時代には多くの人が愛好する飲み物になっていました。街中のカフェで楽しむだけでなく、家でコーヒーを淹れるようにもなります。ベートーヴェンも愛用の器具で、毎朝、自分でコーヒーを淹れて味わっていました。彼はコーヒー豆を60粒正確に数えてコーヒーミルで挽くのを決まりにしていました。きっちりとした構成の曲を書いたベートーヴェンらしい、こだわりの60粒。果たして彼のコーヒーはどんなお味だったのでしょうか？

短期集中講座

バッハ《マタイ受難曲》への招待（全3回）

Einladung zu Bachs Matthäus-Passion

第1回

誰がペテロを責められるだろうか ―ドラマとして味わう《マタイ受難曲》

彌勒忠史
Tadashi Miroku

2027年2月20、21日、オランダが誇る古楽の巨匠トン・コープマンがN響と共演、バッハの《マタイ受難曲》を演奏します。3時間を超える宗教曲の大作に、尻込みする方も多いかも? そこで《マタイ》を知りつくす3人の講師が、聴く前に知っておきたいポイントを凝縮してお伝えする「短期集中講座」を開講。第1回は、カウンターテナーで歌舞伎への出演やオペラの演出も手がける彌勒忠史さんに、《マタイ》をドラマとして味わう方法をご講義いただきます!

バッハが描く人間ドラマ

水がワインに変わる。病人が癒やされ、死者がよみがえる。正直なところ、そうした奇跡の物語に、私はあまり感動したおぼえがない。だが、「あなたを見捨てることなどけっしてありません」と誓った人間が、いざ自分の命が危うくなると、「そんな人など知らない」と3度も言いきってしまう。そのような物語には、どうしようもなく心を揺さぶられる。

バッハの《マタイ受難曲》には、こんなにも儚く、脆い人間の心が描かれている。

受難曲の主人公は、もちろんイエス・キリストだ。しかし、私がこの作品を聴くたびにどうしても感情移入してしまうのは、イエスの弟子ペテロである。師を深く愛し、師のためなら命さえ惜しまないとまで口にする。ところが、師が捕らえられ、自分にも危険がせまると、その決意を守りとおすことができない。彼は3度にわたってイエスとの関係を否定し、やがてみずからの過ちに気づき、激しく泣く。

誰が彼を責められるだろうか。

私たちは、信念を貫き、どんな苦難にもひるまない英雄にあこがれる。しかし、自分の命がかかっているときにも、同じように振る舞えると胸を張って言えるだろうか。ペテロの弱さは、彼が特別に卑怯な人間だったことを示すのではない。むしろ、強い信念を抱いていても、その思いのとおりには生きられないという、人間のどうしようもない弱さを露わにしているのだ。

そしてバッハは、この人間の弱さを、音楽に

よって、オペラにも匹敵するほどの劇的な世界へと描き出した。

オペラティックな受難物語

《マタイ受難曲》は、イエスが捕らえられ、裁判にかけられ、十字架にかけられて死にいたるまでを描いた大作である。演奏には3時間超を要する。宗教曲、バロック、長大な作品。そう聞いただけで、少々身がまえてしまう方もいるかもしれない。

しかし、この作品を映画や演劇を観るように、ひとつのドラマとして捉えてみたらどうだろう。

福音史家のテノールは大河ドラマのナレーターのごとく物語る。イエスやペテロをはじめとする登場人物たちの言葉があり、事件の現場に居合わせた人々の声がある。群衆はときに激しく叫び、ときに残酷なほど無責任に同調する。レチタティーヴォによる物語の進行がいったん歩みを止めると、次に登場人物の心の内側へと聴き手を導くアリアが置かれる。さらに、受難物語を聴いた会衆が抱く思いをあらわすコラールが歌われ、出来事が進む時間と、その意味を噛みしめる時間とが交互に訪れるのである。

オペラなら、舞台上の人物の表情や身振り、照明や舞台美術が、ドラマの流れ、登場人物の関係、役の心情などをあらわすために大きな手助けとなる。だが《マタイ受難曲》では、通常のオペラのように、それぞれの歌手が固定した役を担うこともなければ、舞台上の演技、役をあらわす化粧も衣装もない。声と楽器だけで、人物の心理も、ストーリーも、事件の背後にある感情も描き出してゆくのだ。

オペラではないがオペラに準ずる音楽作品といえば、バッハと同年生まれのヘンデルが書いたイタリア式オラトリオ《時と悟りの勝利》が思い出される。この作品は、オペラ上演が禁止されていた時代に、いっけん倫理的な内容の音楽対話劇の体裁を保ちつつ、時、悟り、美、快楽といったアレゴリー（寓意的な擬人像）たちが登場人物となり物語を進めてゆく。考えてみれば、構造の本質はオペラとなにも変わらない。

それゆえ、私は《マタイ受難曲》も「バッハのオペラ」とよんでみたくなる。バッハはわれわれがイメージするところの歌劇作品を残していない。しかしながら、擬人化された抽象概念の対話で進行するほぼオペラのイタリア式オラトリオよりもよほど、「受肉した神の御子」である人間イエス・キリストを中心に、音楽だけで生々しい人間ドラマを成立させているように思えるのである。

「私はそんな人など知らない」

ペテロの否認は、第2部の重要な場面として描かれる。

イエスが捕らえられた夜、弟子たちは散り散りになり、ペテロは遠くから師の行方を見守る。すると周囲の人々が彼に気づき、「おまえもあの男の仲間ではないか」と問いかける。ペテロは否定する。別の者から同じように問われても、さらにもういちど問われても、彼はイエスを知らないと言いはる。

この場面を動かしていくのは、福音史家の語りと、人々の問いかけ、そしてペテロの応答である。物語は簡潔な言葉によって進んでいくが、その背後には、刻々と高まっていく緊張がある。ペテロはなぜ、そこまでして否定しなければならなかったのか。彼は師をたいせつに思いながらも、自分の身を守りたいという恐怖に負けてしまったのだ。

やがて鶏が鳴く。ペテロは、イエスがかつて、

鶏が鳴くまでに自分が3度師を否認することになると予告していたことを思い出す。そして外へ出て、激しく泣く。

聖書の物語として読めば、ここは過ちを悟り、悔い改める場面である。しかし、私にはそれ以上に、自分自身の弱さを否応なく思い知らされる瞬間として感じられる。自分は正しい人間である、自分はたいせつな人を裏切らない、そう信じていた人が、いざというときに自分の信念を守れなかった。その事実に、本人が誰よりも深く傷ついているのである。

私たちにも、似たような経験はないだろうか。たいせつな人を傷つけてしまったこと。勇気を出すべきときに、なにも言えなかったこと。誰かを守ると約束しながら、自分の都合を優先してしまったこと。ペテロの物語が胸にせまるのは、彼の過ちが、けっして彼ひとりだけのものではないからだ。

独奏ヴァイオリンが涙を歌う

ペテロの否認というエピソードを、バッハはそのまま次の場面へと流してしまわない。ここで音楽は、物語を語る時間から、ひとりの人間の心を見つめる時間へと移っていく。

歌われるのは、名アリア〈憐れんでください、わが神よ（Erbarme dich, mein Gott）〉である。アルト歌手にとって、もっとも気持ちが高揚する場面であり、もっともプレッシャーがかかる場面でもある。

このアリアでまずスポットライトが当たるのは、独奏ヴァイオリンの旋律だ。ため息のように始まり、ゆったりと上下しながら、深い悲しみをおびた歌をつむいでいく。そこに同じ旋律によるアルトの言葉が加わり、神に憐れみを乞う。声とヴァイオリンは、たがいに競いあうというより、ひとつの悲しみを分かちあうかのように進んでいく。

このアリアには、ペテロの失敗を責めたてる響きがない。彼がどれほど愚かだったかを説明するわけでもない。ただ、憐れみを乞う。その音楽に身を委ねていると、私たちは彼を裁くより先に、その悲しみを理解したいと思うようになる。

このとき、聴き手はもはや客席からペテロを傍観しているのではなく、彼の痛みを自分自身のものとして感じはじめている。音楽は、登場人物の心の内側へと聴き手をいざなう。

その後、このアリアに続くコラールが、ペテロのエピソードを聴衆自身の人生と重ねあわせるために、強力な役割をはたす。コラールはもともと会衆が歌う賛美歌である。福音史家が語る聖書の言葉、エピソードに登場する人物の心情を歌うアリア、そして信仰宣言などイエスに寄せる気持ちを会衆が歌うコラール、この3つの音楽的要素が、まさに三位一体となってこの作品を創りあげているのだ。

聖書の物語を知らなくても、キリスト者でなくても、人はこの音楽に心を動かされる。宗教的物語の中に描かれた普遍的な人間の感情が、音楽をつうじて、時代や文化の隔たりを越えて伝わってくるのだろう。

長大な作品をひとつのエピソードから聴く

《マタイ受難曲》は、作品全体を理解してから聴かなければならないと考える必要はない。まずは、たとえばペテロの否認から〈憐れんでください〉へと続く場面に耳を傾けてみてほしい。物語が進み、緊張が高まり、ひとりの人間がみずからの弱さに打ちのめされ、そして音楽がその悲しみを受けとめる。その流れを追うだけでも、この作品がもつドラマの力はじゅうぶんに感じられるはずだ。

私自身がアルト・パートを担うカウンターテナー歌手であるゆえに、〈憐れんでください、わが神よ〉につながるペテロのエピソードが、必要以上に私の心を大きくかき乱すのかもしれない。

しかし《マタイ受難曲》には、他にも聴衆の心を揺さぶるさまざまな人間ドラマが描かれている。

最後の晩餐でイエスの「あなたがたのうちひとりが私を裏切る」という予告にたいして、思わず「それは私ですか?」と言ってしまったユダが、イエスを売り渡したものの、けっきょく激しく後悔して自死してしまうエピソード。冤罪であるとわかっていても、群衆の圧力に負けて、イエスの処遇について責任はもてないと宣言してしまうピラト。そしてもちろん、全編をつうじて描かれているのは、神の御子でありながら、ゲッセマネの祈りや十字架上での「わが神よ、なぜ私をお見捨てになったのですか?」という言葉に、人間的な恐れや苦悩をみせるイエスの姿である。

バッハが生きた時代、受難曲は、キリストの受難を聖書の言葉にもとづいて伝えるための手段であり、ミサという儀式そのものだった。しかし、バッハの《マタイ受難曲》は、物語を伝えるだけにとどまらない。そこに描かれる人々の恐れ、怒り、悲しみ、後悔を、聴き手が、けっして他人事ではない、自分自身の感情として経験できるところに、この作品の特別な力がある。

そして、ペテロの否認は、その力をもっとも鮮やかに示す場面だと思う。

誰が彼を責められるだろうか——。

独奏ヴァイオリンが静かに歌いはじめるとき、その問いは、いつのまにか私たち自身へと向けられているのである。

彌勒忠史｜**みろく・ただし**

千葉大学卒業・同大学院修了、東京藝術大学声楽科卒業。国内外のオペラやコンサート、テレビ・ラジオに出演。CD、著作、連載記事、寄稿多数。日本音楽コンクール、東京音楽コンクールなどの審査員。現在、国立音楽大学客員教授。平成24年度芸術選奨文部科学大臣新人賞(音楽部門)をカウンターテナーとして史上初の受賞。演出を手がけたヘンデル《シッラ》が、2023年佐川吉男音楽賞／奨励賞を受賞。日本演奏連盟、二期会会員。

公演情報

初演300年記念《マタイ受難曲》｜指揮 トン・コープマン

2027/2/20〈土〉3:00pm｜2027/2/21〈日〉2:00pm｜NHKホール

バッハ／マタイ受難曲 BWV 244 (日本語字幕付き)

指揮: トン・コープマン
福音史家(テノールソロ兼): ティルマン・リヒディ
イエス(バス・バリトン): クラウス・メルテンス
ソプラノ: 森 麻季
カウンターテナー: マールテン・エンヘルチェス
バス: ヤスパー・スフェッペ
ピラト(バリトン): ハンス・ウェイエルス
合唱: アムステルダム・バロック合唱団
児童合唱: 東京少年少女合唱隊

チケット料金(発売中)
一般｜**S席 15,000円 A席 12,000円 B席 9,500円 C席 7,500円 D席 6,000円**
ユースチケット(**29歳以下**)｜**S席 7,500円 A席 6,000円 B席 4,750円 C席 3,750円 D席 3,000円**(以上、すべて税込)

2027年1月定期・特別公演のプログラムについて

公演企画担当者から

ルイージ×N響 初のニューイヤーコンサート

［Bプログラム］休止中の**特別公演**は、オペラ・アリアのガラ・コンサート。「**ファビオ・ルイージ**の指揮でいつかこういう企画を」というご要望を以前から多くいただいていた。

登場するのは、現代を代表するオペラ歌手2人。特に**ワーグナー**においては、絶対的とも言える評価を確立している。**カミラ・ニールンド**演じる《**タンホイザー**》のエリーザベトや、《**ワルキューレ**》のジークリンデ、**クラウス・フロリアン・フォークト**の《**ローエングリン**》は、彼らの最高の当たり役で、その名アリアが次々に聴けるのは、贅沢(ぜいたく)この上ない。《**トリスタンとイゾルデ**》のデュエットで、聴き手は陶酔の極致に導かれるだろう。

後半は新春らしいオペレッタの世界。《**チャールダーシュ**》や《**ヴィリアの歌**》は、オーストリア・ハンガリー帝国の辺境や周辺への郷愁を歌ったものだ。逆に《**ウィーンによろしく**》は、ハンガリーから見た首都ウィーンへの憧れ。甘美な旋律の背後に、帝国の文化の重層性を感じ取ることができよう。最後は名デュエット《**私たちの心に誰が愛を沈めたのか**》。官能的な愛の歌でありながら、破局への予感が兆している点で、この曲は《トリスタン》と一対である。

マーラー最晩年の傑作を ルイージとたどる

［Aプログラム］の**マーラー**《**交響曲第9番**》が初演されたのも、オペレッタ華やかなりし頃のウィーンだった。ルイージは15歳でマーラーと出会って以来、そのスコアを研究することが、人生の最大の楽しみのひとつになったという。「マーラーは、魂の奥深くに入り込んでくる。その音楽を体験することは、強力なセラピーのようなものだ」と彼は語る。

演奏に80分以上を要する《第9番》は、さしずめ壮大な「魂の探求の旅」だ。作曲家の死の前年に完成したこの曲は、あえぐような第2ヴァイオリンの主題に始まり、消え入るように終わるアダージョの終楽章まで、全曲、別れへの予感に満ちている。

ブロムシュテットが捉える《第9番》は「愛する者への惜別の辞」だったが、ルイージにはどう映るのだろう。これまで指揮してきたマーラーがそうであったように、粗野なレントラー舞曲やアイロニーに富んだブルレスケなども含めて、独自の美意識を細部まで徹底させた演奏になるのだろうか。

「ベートーヴェン・ピアノ協奏曲全曲演奏」始動

［Cプログラム］では、1月から6月にかけて、**ベートーヴェン**の没後200年にちなんで、

5つのピアノ協奏曲を順番に演奏する。《**第1番**》を弾く**アレッサンドロ・タヴェルナ**は、ルイージが高く評価するピアニストのひとり。技術が安定していて、豊かな詩情にも事欠かない。ルイージの音楽性と合うのも納得だ。主調のハ長調から遠く隔たった変イ長調の第2楽章では、私たちを夢心地の別世界に誘ってくれるだろう。

ベートーヴェンの衣鉢を継いだ“シンフォニスト”たちの作品を、ピアノ協奏曲と組み合わせる。デンマークを代表する**ニルセン**の交響曲は皆、独自の異彩を放っているが、最後の交響曲である《**第6番「シンフォニア・センプリーチェ」**》は一段とユニークだ。“シンプル”という意味の標題通り、とても平明な筆致で書かれている。特に打楽器と木管楽器、トロンボーンだけで演奏される第2楽章のユーモアの味わいは格別である。デンマーク国立響の首席指揮者ルイージにとって、ニルセンはなじみの深い作曲家。N響とは《第2番》《第4番》に続き3曲目である。

最初はデンマークの現代作曲家**ソレンセン**の《**夕暮れの大地**》。幼い頃に体験した、静かな野原に夕日が差す故郷・シェラン島の原風景と、人工的な光がひらめく大都会ニューヨークの黄昏(たそがれ)時。対照的な2つの幻影が交錯し、豊かなイメージが広がっていく。世界初演の際、「宝石細工のようなスコア」と絶賛された。

［西川彰一／NHK交響楽団 芸術主幹］

A
1/16 土 6:00pm
1/17 日 2:00pm
NHKホール

マーラー／交響曲 第9番 ニ長調
指揮：ファビオ・ルイージ



2027年1月Bプログラムはサントリーホールの改修工事に伴い休止いたします。

C
1/22 金 7:00pm
1/23 土 2:00pm
NHKホール

ベートーヴェン没後200年 ピアノ協奏曲全曲演奏1
ソレンセン／夕暮れの大地(2017)
ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第1番 ハ長調 作品15
ニルセン／交響曲 第6番「シンフォニア・センプリーチェ」
指揮：ファビオ・ルイージ　ピアノ：アレッサンドロ・タヴェルナ



創立100年記念
N響ニューイヤーコンサート
1/10 日 3:00pm
1/11 月・祝 3:00pm
NHKホール



ワーグナー／歌劇「リエンチ」序曲、楽劇「ワルキューレ」―ジークムントの愛の歌「冬の嵐は過ぎ去り」◆、楽劇「ワルキューレ」―「きみこそは春」*、歌劇「ローエングリン」―聖杯の物語「はるかな国に」◆、歌劇「タンホイザー」―「おごそかなこの広間よ」*、楽劇「トリスタンとイゾルデ」―「愛の夜よ、とばりを降ろせ」*◆
J. シュトラウスII世／喜歌劇「こうもり」―序曲、チャールダーシュ「ふるさとの調べよ」*
レハール／喜歌劇「ほほえみの国」―「きみはわが心のすべて」◆、喜歌劇「メリー・ウィドー」―「ヴィリアの歌」*
カールマーン／喜歌劇「伯爵夫人マリーツァ」―「ウィーンによろしく」◆
J. シュトラウスII世／皇帝円舞曲 作品437
レハール／喜歌劇「ほほえみの国」―「私たちの心に誰が愛を沈めたのか」*◆
指揮：ファビオ・ルイージ　ソプラノ：カミラ・ニールンド*　テノール：クラウス・フロリアン・フォークト◆

チケットのご案内(定期公演 2026年9月〜2027年6月)

定期会員券

毎回同じ座席をご用意。1回券と比べて1公演あたり10〜52%お得です!(一般料金の場合。ユースチケットでは最大63%お得です。割引率は公演や席種によって異なります)

発売開始日(10:00amからの受付)		
	年間会員券、シーズン会員券(Autumn)	2026年7月5日[日](定期会員先行)/2026年7月12日[日](一般)
	シーズン会員券(Winter)	2026年10月13日[火](定期会員先行)/2026年10月16日[金](一般)
	シーズン会員券(Spring)	2027年2月10日[水](定期会員先行)/2027年2月14日[日](一般)

料金(税込)

年間会員券		S	A	B	C	D
Aプログラム Cプログラム (各9回)	一般	¥76,500(¥8,500)	¥65,025(¥7,225)	¥49,725(¥5,525)	¥41,310(¥4,590)	¥32,895(¥3,655)
	ユースチケット	¥38,250(¥4,250)	¥30,600(¥3,400)	¥23,715(¥2,635)	¥19,503(¥2,167)	¥11,475(¥1,275)
Bプログラム (3回)	一般	¥30,600(¥10,200)	¥25,500(¥8,500)	¥20,400(¥6,800)	¥16,575(¥5,525)	¥14,025(¥4,675)
	ユースチケット	¥15,300(¥5,100)	¥12,750(¥4,250)	¥10,200(¥3,400)	¥8,286(¥2,762)	¥7,011(¥2,337)

シーズン会員券		S	A	B	C	D
Aプログラム Cプログラム (各3回)	一般	¥26,850(¥8,950)	¥22,824(¥7,608)	¥17,454(¥5,818)	¥14,499(¥4,833)	¥11,547(¥3,849)
	ユースチケット	¥13,425(¥4,475)	¥10,740(¥3,580)	¥8,325(¥2,775)	¥6,849(¥2,283)	¥4,029(¥1,343)

( )内は1公演あたりの単価

1回券

公演ごとにチケットをお買い求めいただけます。料金は公演によって異なります。各公演の情報でご覧ください。

発売開始日(10:00amからの受付)		
	9・10・11月	2026年7月22日[水](定期会員先行)/2026年7月26日[日](一般)
	12・1・2月	2026年10月21日[水](定期会員先行)/2026年10月25日[日](一般)
	4・5・6月	2027年2月19日[金](定期会員先行)/2027年2月23日[火・祝](一般)

ユースチケット

29歳以下の方へのお得なチケットです。全席種が一般料金の半額以下、1公演1000円〜で定期公演をお楽しみいただけます。1回券と定期会員券ともにご利用いただけます。料金は各公演の情報でご覧ください。

※ユースチケットはWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。

※初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳しくはN響ホームページをご覧ください。

お申し込み

WEBチケットN響
https://nhkso.pia.jp

N響ガイド | TEL 0570-02-9502
営業時間:10:00am〜5:00pm
定休日:土・日・祝日

- 東京都内での主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am〜開演時刻まで営業
- 発売初日の土・日・祝日は10:00am〜3:00pmの営業
- 電話受付のみの営業

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

Please follow us on

N響ニュースレター 最新情報をメールでお届けします。
WEBチケットN響の「利用登録」からご登録ください。

2026–27定期公演プログラム

2026 12

A

第2077回

11/28(土) 6:00pm
11/29(日) 2:00pm

※12月定期公演Aプログラムは11月に開催いたします。

NHKホール

デュトワ＆アルゲリッチ　四半世紀の時を経てN響で再共演!

N響100年特別企画

ファリャ／バレエ組曲「三角帽子」第2番
ラヴェル／ピアノ協奏曲 ト長調
ベルリオーズ／幻想交響曲 作品14

指揮:シャルル・デュトワ　ピアノ:マルタ・アルゲリッチ

一般	ユースチケット
S ¥17,000	S ¥8,500
A ¥14,500	A ¥7,000
B ¥11,500	B ¥5,500
C ¥9,500	C ¥4,500
D ¥7,500	D ¥3,500
E ¥5,500	E ¥2,500

B

第2079回

12/10(木) 7:00pm
12/11(金) 7:00pm

サントリーホール

才人・エメリャニチェフが命を吹き込む 100年記念作と《スコットランド》

モーツァルト／歌劇「魔笛」序曲
スルンカ／煙―チェロとオーケストラのための［NHK交響楽団100年記念委嘱作品／チェコ・フィルハーモニー管弦楽団 国際共同委嘱／世界初演］
メンデルスゾーン／交響曲 第3番 イ短調 作品56「スコットランド」

指揮:マキシム・エメリャニチェフ　チェロ:ニコラ・アルトシュテット

一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

C

第2078回

12/4(金) 7:00pm
12/5(土) 2:00pm

NHKホール

極限まで追求された リズムのポテンシャル

N響100年特別企画 **ベートーヴェン交響曲全曲演奏4**

ベートーヴェン／交響曲 第4番 変ロ長調 作品60
ベートーヴェン／交響曲 第7番 イ長調 作品92

指揮:シャルル・デュトワ

※ベートーヴェン《交響曲第9番「合唱つき」》は、2026年末の「ベートーヴェン『第9』演奏会」で演奏予定です(指揮:マレク・ヤノフスキ)。

一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥3,600
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥1,900
E ¥3,300	E ¥1,600

2027 01

A

第2080回

1/16(土) 6:00pm
1/17(日) 2:00pm

NHKホール

ルイージ&N響が満を持して挑む　マーラー最高峰の交響曲

マーラー／交響曲 第9番 ニ長調

指揮:ファビオ・ルイージ

一般	ユースチケット
S ¥13,000	S ¥6,500
A ¥11,000	A ¥5,200
B ¥8,500	B ¥4,000
C ¥7,000	C ¥3,500
D ¥5,600	D ¥2,000
E ¥3,500	E ¥1,700

B

2027年1月、2月、4月、5月、6月のBプログラムは
サントリーホールの改修工事に伴い休止いたします。

C

第2081回

1/22(金) 7:00pm
1/23(土) 2:00pm

NHKホール

「デンマークのベートーヴェン」ニルセン最後のシンフォニー

ベートーヴェン没後200年 ピアノ協奏曲全曲演奏1

ソレンセン／夕暮れの大地(2017)
ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第1番 ハ長調 作品15
ニルセン／交響曲 第6番「シンフォニア・センプリーチェ」

指揮:ファビオ・ルイージ　ピアノ:アレッサンドロ・タヴェルナ

一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥3,600
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥1,900
E ¥3,300	E ¥1,600

2027 02

A

第2082回

2/6(土) 6:00pm
2/7(日) 2:00pm

NHKホール

鬼才マナコルダとドイツ語圏音楽　300年の成り行きを俯瞰する

バッハ(ウェーベルン編)／「音楽のささげもの」BWV1079―6声のリチェルカール
マーラー／リュッケルトによる5つの歌
シェーンベルク／室内交響曲 第2番 作品38
シューベルト／交響曲 第7番 ロ短調 D. 759「未完成」

指揮:アントネッロ・マナコルダ　バリトン:クリスティアン・ゲルハーヘル※

※当初出演予定のアンドレ・シュエン(バリトン)から変更いたします。

一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

B

2027年1月、2月、4月、5月、6月のBプログラムは
サントリーホールの改修工事に伴い休止いたします。

C

第2083回

2/12(金) 7:00pm
2/13(土) 2:00pm

NHKホール

子が光を当てる父とその盟友の名作 そして超新星ピアニスト降臨!

ベートーヴェン没後200年 ピアノ協奏曲全曲演奏2

シューマン／歌劇「ゲノヴェーヴァ」序曲
ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 作品19
尾高尚忠／交響詩「盧屋乙女」作品9
パヌフニク／交響曲 第2番「悲歌」

指揮:尾高忠明　ピアノ:イム・ユンチャン

一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

A NHKホール
土 開場5:00pm 開演6:00pm
日 開場1:00pm 開演2:00pm

B サントリーホール
木 開場6:20pm 開演7:00pm
金 開場6:20pm 開演7:00pm

C NHKホール
金 開場6:00pm 開演7:00pm
土 開場1:00pm 開演2:00pm

2027 04

A
第2084回
4/10土 6:00pm
4/11日 2:00pm
NHKホール

いざ、ルイージと行かん! アルプスという名の「人生」を歩む旅へ
メンデルスゾーン／ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 作品64
R. シュトラウス／アルプス交響曲 作品64

指揮:ファビオ・ルイージ
ヴァイオリン:ジェームズ・エーネス

	一般	ユースチケット
S	¥13,000	¥6,500
A	¥11,000	¥5,200
B	¥8,500	¥4,000
C	¥7,000	¥3,500
D	¥5,600	¥2,000
E	¥3,500	¥1,700

B
2027年1月、2月、4月、5月、6月のBプログラムは
サントリーホールの改修工事に伴い休止いたします。

C
第2085回
4/23金 7:00pm
4/24土 2:00pm
NHKホール

若きカリスマ エリム・チャンが放つ圧倒的な躍動感
ベートーヴェン没後200年 ピアノ協奏曲全曲演奏3
ドヴォルザーク／交響詩「真昼の魔女」作品108
ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第3番 ハ短調 作品37
チン・ウンスク／スビト・コン・フォルツァ
ショスタコーヴィチ／交響曲 第9番 変ホ長調 作品70

指揮:エリム・チャン　ピアノ:アリス・紗良・オット

	一般	ユースチケット
S	¥10,000	¥5,000
A	¥8,500	¥4,000
B	¥6,500	¥3,100
C	¥5,400	¥2,550
D	¥4,300	¥1,500
E	¥2,200	¥1,000

2027 05

A
第2086回
5/8土 6:00pm
5/9日 2:00pm
NHKホール

パーヴォのイチ押し! 北欧・珠玉の名品たち
グリーグ／ピアノ協奏曲 イ短調 作品16
ステンハンマル／交響曲 第2番 ト短調 作品34

指揮:パーヴォ・ヤルヴィ
ピアノ:デニス・コジュヒン

	一般	ユースチケット
S	¥12,000	¥6,000
A	¥10,000	¥5,000
B	¥8,000	¥3,600
C	¥6,500	¥3,250
D	¥5,500	¥1,900
E	¥3,300	¥1,600

B
2027年1月、2月、4月、5月、6月のBプログラムは
サントリーホールの改修工事に伴い休止いたします。

C
第2087回
5/21金 7:00pm
5/22土 2:00pm
NHKホール

こだわりのプログラムを携え 名匠ケント・ナガノ N響を初指揮
ベートーヴェン没後200年 ピアノ協奏曲全曲演奏4
リュリ／バレエ音楽「町人貴族」(抜粋)
ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第4番 ト長調 作品58
R. シュトラウス／組曲「町人貴族」作品60

指揮:ケント・ナガノ
ピアノ:ティル・フェルナー

	一般	ユースチケット
S	¥11,000	¥5,500
A	¥9,500	¥4,500
B	¥7,600	¥3,500
C	¥6,000	¥2,800
D	¥5,000	¥1,800
E	¥3,000	¥1,400

2027 06

A
第2088回
6/5土 6:00pm
6/6日 2:00pm
NHKホール

ソヒエフ&N響の初ブルックナーはワーグナーに捧げられた意欲作
モーツァルト／交響曲 第35番 ニ長調 K. 385「ハフナー」
ブルックナー／交響曲 第3番 ニ短調「ワーグナー」(第3稿／1889)

指揮:トゥガン・ソヒエフ

	一般	ユースチケット
S	¥12,000	¥6,000
A	¥10,000	¥5,000
B	¥8,000	¥3,600
C	¥6,500	¥3,250
D	¥5,500	¥1,900
E	¥3,300	¥1,600

B
2027年1月、2月、4月、5月、6月のBプログラムは
サントリーホールの改修工事に伴い休止いたします。

C
第2089回
6/18金 7:00pm
6/19土 2:00pm
NHKホール

若き大物がN響と正面から取り組む 本格的独壇プログラム
ベートーヴェン没後200年 ピアノ協奏曲全曲演奏5
ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調 作品73「皇帝」
R. シュトラウス／交響詩「英雄の生涯」作品40

指揮:トーマス・グッギス
ピアノ:キリル・ゲルシュタイン

	一般	ユースチケット
S	¥11,000	¥5,500
A	¥9,500	¥4,500
B	¥7,600	¥3,500
C	¥6,000	¥2,800
D	¥5,000	¥1,800
E	¥3,000	¥1,400

(料金はすべて税込)

※今後の状況によっては、出演者や曲目等が変更になる場合や、公演が中止となる場合があります。 あらかじめご了承ください。

速報 2027–28定期公演プログラム（2027年9月～2028年6月）

2027 09

A
第2090回
9/11 土 6:00pm
9/12 日 2:00pm
NHKホール

ベートーヴェン没後200年
ベートーヴェン／ミサ・ソレムニス ニ長調 作品123

指揮：ファビオ・ルイージ
ソプラノ：レイチェル・ウィリス・ソレンセン　メゾ・ソプラノ：カトリオーナ・モリソン
テノール：サイミール・ピルグ　バス：フランツ・ヨーゼフ・ゼーリヒ　合唱：東京オペラシンガーズ

B
第2092回
9/23 木 祝 7:00pm
9/24 金 7:00pm
サントリーホール

グラズノフ／ヴァイオリン協奏曲 イ短調 作品82
ラフマニノフ／交響曲 第2番 ホ短調 作品27

指揮：ロビン・ティチアーティ
ヴァイオリン：ヴィルデ・フラング

C
第2091回
9/17 金 7:00pm
9/18 土 2:00pm
NHKホール

ブラームス／ピアノ協奏曲 第1番 ニ短調 作品15
ブラームス／交響曲 第4番 ホ短調 作品98

指揮：ファビオ・ルイージ
ピアノ：エレーヌ・グリモー

2027 10

A
第2093回
10/16 土 6:00pm
10/17 日 2:00pm
NHKホール

ブルックナー／交響曲 第8番 ハ短調（ハース版）

指揮：下野竜也

B
第2095回
10/28 木 7:00pm
10/29 金 7:00pm
サントリーホール

モーツァルト／ピアノ協奏曲 第27番 変ロ長調 K. 595
ベートーヴェン／交響曲 第3番 変ホ長調 作品55「英雄」

指揮：マンフレート・ホーネック
ピアノ：河村尚子

C
第2094回
10/22 金 7:00pm
10/23 土 2:00pm
NHKホール

スーク／幻想曲 作品24*
ドヴォルザーク／ロマンス ヘ短調 作品11*
チャイコフスキー／交響曲 第5番 ホ短調 作品64

指揮：マンフレート・ホーネック
ヴァイオリン：ユリア・フィッシャー*

2027 11

A
第2096回
11/6 土 6:00pm
11/7 日 2:00pm
NHKホール

ウェーバー／歌劇「魔弾の射手」序曲
細川俊夫／ピアノ協奏曲［NHK交響楽団、ウィーン交響楽団、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団 国際共同委嘱作品／日本初演］
フランク／交響詩「呪われた狩人」
マルティヌー／交響曲 第6番「交響的幻想曲」
指揮：ペトル・ポペルカ　ピアノ：藤田真央

B
第2098回
11/18 木 7:00pm
11/19 金 7:00pm
サントリーホール

シベリウス没後70年
シベリウス／交響曲 第6番 ニ短調 作品104
シベリウス／2つのセレナード 作品69*
シベリウス／2つのユモレスク 作品87*
シベリウス／4つのユモレスク 作品89*
シベリウス／交響曲 第7番 ハ長調 作品105
指揮：ユッカ・ペッカ・サラステ　ヴァイオリン：金川真弓*

C
第2097回
11/12 金 7:00pm
11/13 土 2:00pm
NHKホール

ワーグナー（マゼール編）／言葉のない「指環」―「ニーベルングの指環」管弦楽曲集

指揮：ペトル・ポペルカ

速報 2027–28定期公演プログラム（2027年9月～2028年6月）

2027 12

A

第2099回
11/27土 6:00pm
11/28日 2:00pm
※12月定期公演Aプログラムは11月に開催いたします。
NHKホール

ブラームス／ドイツ・レクイエム 作品45

指揮：ファビオ・ルイージ
ソプラノ：ユリア・クライター　バリトン：マティアス・ゲルネ　合唱：新国立劇場合唱団
合唱指揮：冨平恭平

B

第2101回
12/9木 7:00pm
12/10金 7:00pm
サントリーホール

シェーンベルク／ピアノ協奏曲 作品42*
ガーシュウィン／ラプソディー・イン・ブルー*
シェーンベルク／浄められた夜 作品4

指揮：ファビオ・ルイージ
ピアノ：イノン・バルナタン*

C

第2100回
12/3金 7:00pm
12/4土 2:00pm
NHKホール

ハイドン／交響曲 第49番 ヘ短調 Hob. I-49「受難」
ブルックナー／交響曲 第7番 ホ長調（ノヴァーク版）

指揮：ファビオ・ルイージ

2028 01

A

第2102回
1/15土 6:00pm
1/16日 2:00pm
NHKホール

ハイドン／交響曲 第103番 変ホ長調 Hob. I-103「太鼓連打」
マーラー／交響曲 第1番 ニ長調「巨人」

指揮：トゥガン・ソヒエフ

B

第2104回
1/27木 7:00pm
1/28金 7:00pm
サントリーホール

シューベルト／「ロザムンデ」序曲 D 644
フンメル／ファゴット協奏曲 ヘ長調
ブラームス／交響曲 第2番 ニ長調 作品73

指揮：トゥガン・ソヒエフ
ファゴット：ソフィー・デルヴォー

C

第2103回
1/21金 7:00pm
1/22土 2:00pm
NHKホール

ラフマニノフ／パガニーニの主題による狂詩曲 作品43*
ショスタコーヴィチ／交響曲 第10番 ホ短調 作品93

指揮：トゥガン・ソヒエフ
ピアノ：ルーカス・シュテルナート*

2028 02

A

第2105回
2/5土 6:00pm
2/6日 2:00pm
NHKホール

メンデルスゾーン／序曲「フィンガルの洞窟」作品26
メンデルスゾーン／交響曲 第1番 ハ短調 作品11
メンデルスゾーン（ヴィトマン編）／アンダンテ―クラリネット、弦楽オーケストラ、ハープ、チェレスタのための（クラリネット・ソナタ―第2楽章）
メンデルスゾーン／交響曲 第5番 ニ短調 作品107「宗教改革」

指揮・クラリネット：イェルク・ヴィトマン

B

第2107回
2/17木 7:00pm
2/18金 7:00pm
サントリーホール

ラヴェル／組曲「クープランの墓」
ブリテン／テノール、ホルン、弦楽のためのセレナード 作品31
ヴォーン・ウィリアムズ／交響曲 第5番 ニ長調

指揮：ニコラス・カーター
テノール：ジョナ・ホスキンス　ホルン：今井仁志（N響首席ホルン奏者）

C

第2106回
2/11金 祝 7:00pm
2/12土 2:00pm
NHKホール

バルトーク／ヴァイオリン協奏曲 第2番
シベリウス／交響詩「吟遊詩人」作品64
シベリウス／交響曲 第3番 ハ長調 作品52

指揮：ディマ・スロボデニューク
ヴァイオリン：服部百音

A	**NHKホール** 土 開場5:00pm 開演6:00pm 日 開場1:00pm 開演2:00pm	B	**サントリーホール** 木 開場6:20pm 開演7:00pm 金 開場6:20pm 開演7:00pm
C	**NHKホール** 金 開場6:00pm 開演7:00pm 土 開場1:00pm 開演2:00pm		

2028 04

A
第2108回
4/8土 6:00pm
4/9日 2:00pm
NHKホール

バーバー／ヴァイオリン協奏曲 作品14*
コリリャーノ／テネシーの歌◆*
ブリテン／シンフォニア・ダ・レクイエム 作品20
アダムズ／ドクター・アトミック・シンフォニー
指揮：デーヴィッド・ロバートソン
ヴァイオリン：ジョシュア・ベル*　ソプラノ：ラリサ・マルティネス◆

B
第2110回
4/20木 7:00pm
4/21金 7:00pm
サントリーホール

ベートーヴェン／12のコントルダンス WoO 14
モーツァルト／交響曲 第40番 ト短調 K. 550
シューベルト／交響曲 第5番 変ロ長調 D 485
指揮：ネーメ・ヤルヴィ

C
第2109回
4/14金 7:00pm
4/15土 2:00pm
NHKホール

ハイドン／ピアノ協奏曲 ニ長調 Hob. XVIII-11
チャイコフスキー／交響曲「マンフレッド」作品58
指揮：ネーメ・ヤルヴィ
ピアノ：ヤーン・オッツ

2028 05

A
第2111回
5/20土 6:00pm
5/21日 2:00pm
NHKホール

ラフマニノフ／ピアノ協奏曲 第3番 ニ短調 作品30
チャイコフスキー／交響曲 第6番 ロ短調 作品74「悲愴」
指揮：ワレリー・ポリャンスキー
ピアノ：ドミートリ・マスレーエフ

B
第2112回
5/25木 7:00pm
5/26金 7:00pm
サントリーホール

ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第3番 ハ短調 作品37
フランツ・シュミット／交響曲 第2番 変ホ長調
指揮：ファビオ・ルイージ
ピアノ：ベアトリーチェ・ラナ

C
第2113回
6/2金 7:00pm
6/3土 2:00pm
※5月定期公演Cプログラムは6月に開催いたします。
NHKホール

マーラー／交響詩「葬礼」
マーラー／交響曲「大地の歌」*
指揮：ファビオ・ルイージ
アルト：ヴィープケ・レームクール*　テノール：ベンヤミン・ブルンス*

2028 06

A
第2114回
6/10土 6:00pm
6/11日 2:00pm
NHKホール

モーツァルト／ピアノ協奏曲 第22番 変ホ長調 K. 482
リムスキー・コルサコフ／交響組曲「シェエラザード」作品35
指揮：シャルル・デュトワ
ピアノ：小菅 優

B
第2115回
6/15木 7:00pm
6/16金 7:00pm
サントリーホール

コダーイ／ガランタ舞曲
ショスタコーヴィチ／チェロ協奏曲 第1番 変ホ長調 作品107
サン・サーンス／交響曲 第3番 ハ短調 作品78「オルガンつき」
指揮：シャルル・デュトワ
チェロ：上野通明

C
第2116回
6/23金 7:00pm
6/24土 2:00pm
NHKホール

ベルリオーズ／交響曲「イタリアのハロルド」*
レスピーギ／交響詩「ローマの噴水」
レスピーギ／交響詩「ローマの松」
指揮：シャルル・デュトワ
ヴィオラ：村上淳一郎（N響首席ヴィオラ奏者）*

※今後の状況によっては、出演者や曲目等が変更になる場合や、公演が中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。
※料金、発売日等チケットの詳細は2027年4月上旬に発表予定です。

特別公演

12/17木 7:00pm
12/18金 7:00pm
12/19土 2:00pm
12/20日 2:00pm
12/22火 7:00pm

ベートーヴェン「第9」演奏会

NHKホール

N響100年特別企画 **ベートーヴェン交響曲全曲演奏5**

指揮:マレク・ヤノフスキ　ソプラノ:森谷真理　メゾ・ソプラノ:杉山由紀　テノール:村上公太
バス・バリトン:トマシュ・コニエチュニー　合唱:東京オペラシンガーズ　合唱指揮:冨平恭平
ベートーヴェン／交響曲 第9番 ニ短調 作品125「合唱つき」

料金(税込):一般｜S席17,000円 A席13,500円 B席10,000円 C席7,500円 D席5,000円
ユースチケット(29歳以下)｜S席8,500円 A席6,750円 B席5,000円 C席3,750円 D席2,500円
※定期会員は一般料金の10%割引

チケット発売日:N響定期会員先行｜9月1日(火)10:00am
一般｜9月6日(日)10:00am

※12月22日はNHK／NHK厚生文化事業団主催のチャリティーコンサートです。プログラムは他の日程と同一です。お問合せ:NHK厚生文化事業団 TEL(03)3476-5955

主催:NHK・NHK交響楽団／NHK・NHK厚生文化事業団(22日公演のみ)
協賛:みずほ証券株式会社／はごろもフーズ株式会社／株式会社明電舎

12/23水 7:00pm｜**かんぽ生命 presents N響第九 Special Concert**

サントリーホール

N響100年特別企画 **ベートーヴェン交響曲全曲演奏5**

指揮:マレク・ヤノフスキ　ソプラノ:森谷真理　メゾ・ソプラノ:杉山由紀　テノール:村上公太
バス・バリトン:トマシュ・コニエチュニー　合唱:東京オペラシンガーズ　合唱指揮:冨平恭平　オルガン:勝山雅世＊
バッハ／「高き天よりわれは来れり」によるカノン風変奏曲 BWV 769*
ベートーヴェン／交響曲 第9番 ニ短調 作品125「合唱つき」

料金(税込):一般｜S席20,000円 A席16,500円 B席13,000円 C席9,000円
ユースチケット(29歳以下)｜S席10,000円 A席8,200円 B席6,500円 C席4,500円
※定期会員は一般料金の10%割引

チケット発売日:N響定期会員先行｜9月1日(火)10:00am
一般｜9月6日(日)10:00am

主催:NHK交響楽団　特別協賛:株式会社かんぽ生命保険

2027/1/10日 3:00pm
2027/1/11月祝 3:00pm

創立100年記念 N響ニューイヤーコンサート

NHKホール

指揮:ファビオ・ルイージ　ソプラノ:カミラ・ニールンド★　テノール:クラウス・フロリアン・フォークト◆

ワーグナー／歌劇「リエンチ」序曲
ワーグナー／楽劇「ワルキューレ」―ジークムントの愛の歌「冬の嵐は過ぎ去り」◆
ワーグナー／楽劇「ワルキューレ」―「きみこそは春」★
ワーグナー／歌劇「ローエングリン」―聖杯の物語「はるかな国に」◆
ワーグナー／歌劇「タンホイザー」―「おごそかなこの広間よ」★
ワーグナー／楽劇「トリスタンとイゾルデ」―「愛の夜よ、とばりを降ろせ」★◆
J. シュトラウスII世／喜歌劇「こうもり」―序曲、チャールダーシュ「ふるさとの調べよ」★
レハール／喜歌劇「ほほえみの国」―「きみはわが心のすべて」◆
レハール／喜歌劇「メリー・ウィドー」―「ヴィリアの歌」★
カールマーン／喜歌劇「伯爵夫人マリーツァ」―「ウィーンによろしく」◆
J. シュトラウスII世／皇帝円舞曲 作品437
レハール／喜歌劇「ほほえみの国」―「私たちの心に誰が愛を沈めたのか」★◆

料金(税込):一般｜S席15,000円 A席12,000円 B席9,500円 C席7,500円 D席6,000円
ユースチケット(29歳以下)｜S席7,500円 A席6,000円 B席4,750円 C席3,750円 D席3,000円
※定期会員は一般料金の10%割引

チケット発売日:N響定期会員先行｜9月1日(火)10:00am
一般｜9月6日(日)10:00am

主催:NHK／NHK交響楽団

2027/2/20土 3:00pm
2027/2/21日 2:00pm

初演300年記念《マタイ受難曲》 指揮 トン・コープマン

NHKホール

指揮:トン・コープマン　福音史家(テノールソロ兼):ティルマン・リヒディ　イエス(バス・バリトン):クラウス・メルテンス
ソプラノ:森 麻季　カウンターテナー:マールテン・エンヘルチェス　バス:ヤスパー・スフェッペ
ピラト(バリトン):ハンス・ウェイエルス　合唱:アムステルダム・バロック合唱団　児童合唱:東京少年少女合唱隊
※当初発表より、配役の変更および出演者の追加が生じています。

バッハ／マタイ受難曲 BWV 244(日本語字幕付き)

料金(税込):一般｜S席15,000円 A席12,000円 B席9,500円 C席7,500円 D席6,000円
ユースチケット(29歳以下)｜S席7,500円 A席6,000円 B席4,750円 C席3,750円 D席3,000円
※定期会員は一般料金の10%割引

チケット発売日:N響定期会員先行｜10月21日(水)10:00am
一般｜10月25日(日)10:00am

主催:NHK／NHK交響楽団

2/24㊌ 7:00pm｜N響大河ドラマ＆名曲コンサート

すみだトリフォニーホール

指揮:下野竜也　特別ゲスト:高橋英樹（俳優）
ソプラノ:川越未晴　合唱:慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団・女声合唱団　司会:田添菜穂子

［第1部　大河ドラマ編］
武田信玄（1988／山本直純）　西郷どん（2018／富貴晴美）　篤姫（2008／吉俣 良）　八重の桜（2013／坂本龍一）
花燃ゆ（2015／川井憲次）　どうする家康（2023／稲本 響）　江〜姫たちの戦国〜（2011／吉俣 良）
赤穂浪士（1964／芥川也寸志）　べらぼう〜蔦重栄華乃夢噺〜（2025／ジョン・グラム）　逆賊の幕臣（2027／大間々 昂）

［第2部　「河」「川」にちなんだクラシック名曲選］
ムソルグスキー（ショスタコーヴィチ編）／歌劇「ホヴァンシチナ」―前奏曲「モスクワ川の夜明け」
J. シュトラウスII世／ポルカ・フランセーズ「ネヴァ川」作品288
シベリウス／交響詩「4つの伝説」作品22―「トゥオネラの白鳥」
J. シュトラウスI世／ワルツ「ローレライ・ラインの調べ」作品154
ビゼー／「アルルの女」組曲 第2番―「ファランドール」

料金（税込）:一般｜S席13,000円 A席11,000円 B席8,000円 C席5,000円
ユースチケット（29歳以下）｜S席6,500円 A席5,500円 B席4,000円 C席2,500円
※定期会員は一般料金の10%割引

チケット発売日:N響定期会員先行｜11月20日（金）10:00am
一般｜11月24日（火）10:00am

主催:NHK／NHK交響楽団

特別公演 東京芸術劇場シリーズ｜2027年4〜6月｜木 7:00pm 金 7:00pm

2027/4/15木 7:00pm
2027/4/16金 7:00pm
東京芸術劇場

指揮:ファビオ・ルイージ　チェロ:辻本 玲*
フランツ・シュミット／歌劇「ノートルダム」―「間奏曲と謝肉祭の音楽」
ヒンデミット／バレエ組曲「気高い幻想」
R. シュトラウス／交響詩「ドン・キホーテ」作品35*

2027/5/13木 7:00pm
2027/5/14金 7:00pm
東京芸術劇場

指揮:沖澤のどか　ハープ:早川りさこ
ドビュッシー／牧神の午後への前奏曲
ランサン／ハープと管弦楽のための田園協奏曲[日本初演]
タイユフェール／小組曲
ラヴェル／バレエ組曲「ダフニスとクロエ」第1番、第2番

2027/6/10木 7:00pm
2027/6/11金 7:00pm
東京芸術劇場

指揮:トゥガン・ソヒエフ　オーボエ:中村周平　クラリネット:松本健司　ファゴット:宇賀神広宣　ホルン:今井仁志
プロコフィエフ／古典交響曲 作品25
モーツァルト／4つの管楽器と管弦楽のための協奏交響曲 変ホ長調 K. 297b
ストラヴィンスキー／バレエ音楽「春の祭典」

料金(税込):セット券｜一般｜S席29,400円 A席24,600円 B席19,500円 C席15,900円
セット券｜ユースチケット(29歳以下)｜S席14,700円 A席12,300円 B席9,600円 C席7,800円
1回券｜一般｜S席12,000円 A席10,000円 B席8,000円 C席6,500円
1回券｜ユースチケット(29歳以下)｜S席6,000円 A席5,000円 B席4,000円 C席3,200円
※定期会員は一般料金の10%割引(ただしセット券はのぞく)

チケット発売日:[セット券] Bプログラム定期会員先行｜11月24日(火)10:00am
N響定期会員先行｜11月28日(土)10:00am
一般｜12月2日(水)10:00am
[1回券] N響定期会員先行｜12月16日(水)10:00am
一般｜12月20日(日)10:00am

主催:NHK／NHK交響楽団

お申し込み
WEBチケットN響｜**https://nhkso.pia.jp**
N響ガイド｜**TEL 0570-02-9502**
営業時間:10:00am〜5:00pm
定休日:土・日・祝日
●東京都内での主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am〜開演時刻まで営業
●発売初日の土・日・祝日は10:00am〜3:00pmの営業
●電話受付のみの営業

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

各地の公演

1/7(木) 7:00pm | 創立100年記念 N響ニューイヤーコンサート 大阪公演

ザ・シンフォニーホール

指揮:ファビオ・ルイージ　ソプラノ:カミラ・ニールンド*　テノール:クラウス・フロリアン・フォークト◆

ワーグナー／歌劇「リエンチ」序曲
ワーグナー／楽劇「ワルキューレ」―ジークムントの愛の歌「冬の嵐は過ぎ去り」◆
ワーグナー／楽劇「ワルキューレ」―「きみこそは春」*
ワーグナー／歌劇「ローエングリン」―聖杯の物語「はるかな国に」◆
ワーグナー／歌劇「タンホイザー」―「おごそかなこの広間よ」*
ワーグナー／楽劇「トリスタンとイゾルデ」―「愛の夜よ、とばりを降ろせ」*◆
J. シュトラウスII世／喜歌劇「こうもり」―序曲、チャールダーシュ「ふるさとの調べよ」*
レハール／喜歌劇「ほほえみの国」―「きみはわが心のすべて」◆
レハール／喜歌劇「メリー・ウィドー」―「ヴィリアの歌」*
カールマーン／喜歌劇「伯爵夫人マリーツァ」―「ウィーンによろしく」◆
J. シュトラウスII世／皇帝円舞曲 作品437
レハール／喜歌劇「ほほえみの国」―「私たちの心に誰が愛を沈めたのか」*◆

主催:NHK大阪放送局／NHK交響楽団　お問合せ:NHK大阪ホール NHKイベントガイド TEL(06)6947-5000

1/27(水) 7:00pm | 2027都民音楽フェスティバル オーケストラ・シリーズNo. 58 NHK交響楽団

東京芸術劇場

指揮:パスカル・ロフェ　ピアノ:小林愛実

ストラヴィンスキー／組曲「プルチネッラ」
ラヴェル／ピアノ協奏曲 ト長調
ブラームス／大学祝典序曲 作品80
ブラームス／ハイドンの主題による変奏曲 作品56a

主催・お問合せ:(公社)日本演奏連盟 TEL(03)3539-5131

1/29(金) 7:00pm | NHK交響楽団演奏会 宮崎公演

メディキット県民文化センター(宮崎県立芸術劇場) アイザックスターンホール

出演者・曲目は1月27日と同じ

主催:UMKテレビ宮崎　お問合せ:テレビ宮崎 事業部 TEL(0985)31-5131

1/30(土) 4:30pm | NHK交響楽団演奏会 大分公演

iichiko総合文化センター iichikoグランシアタ

出演者・曲目は1月27日と同じ

主催:NHK大分放送局／NHK交響楽団　お問合せ:ハローダイヤル TEL(050)5541-8600

1/31日 4:00pm｜NHK交響楽団演奏会 熊本公演

市民会館シアーズホーム夢ホール 大ホール

出演者・曲目は1月27日と同じ

主催:NHK熊本放送局／NHK交響楽団　お問合せ:ハローダイヤル TEL(050)5541-8600

2/1月 7:00pm｜久留米シティプラザ開館10周年記念 NHK交響楽団 久留米公演

久留米シティプラザ ザ・グランドホール

出演者・曲目は1月27日と同じ

主催・お問合せ:久留米シティプラザ(久留米市) TEL(0942)36-3000

2/25木 7:00pm｜NHK交響楽団パルテノン多摩演奏会―大河ドラマ テーマ曲＆名曲選―

パルテノン多摩 大ホール

指揮:下野竜也　ソプラノ:川越未晴　司会:田添菜穂子

[第1部　大河ドラマ編]
武田信玄(1988／山本直純)　西郷どん(2018／富貴晴美)　篤姫(2008／吉俣 良)　八重の桜(2013／坂本龍一)
花燃ゆ(2015／川井憲次)　どうする家康(2023／稲本 響)　江～姫たちの戦国～(2011／吉俣 良)
赤穂浪士(1964／芥川也寸志)　べらぼう～蔦重栄華乃夢噺～(2025／ジョン・グラム)　逆賊の幕臣(2027／大間々 昂)

[第2部　「河」「川」にちなんだクラシック名曲選]
ムソルグスキー(ショスタコーヴィチ編)／歌劇「ホヴァンシチナ」―前奏曲「モスクワ川の夜明け」
J. シュトラウスII世／ポルカ・フランセーズ「ネヴァ川」作品288
シベリウス／交響詩「4つの伝説」作品22―「トゥオネラの白鳥」
J. シュトラウスI世／ワルツ「ローレライ・ラインの調べ」作品154
ビゼー／「アルルの女」組曲 第2番―「ファランドール」

主催:パルテノン多摩共同事業体　お問合せ:パルテノン多摩 TEL(042)376-8181

2/27土 4:00pm｜N響大河ドラマ＆名曲コンサート 静岡公演

静岡市清水文化会館マリナート

出演者・曲目は2月25日と同じ

主催:NHK静岡放送局／NHK交響楽団　お問合せ:ハローダイヤル TEL(050)5541-8600

2/28日 3:00pm｜白河文化交流館コミネス開館10周年記念事業「N響大河ドラマ名曲コンサート」

白河文化交流館コミネス

出演者・曲目は2月25日と同じ

主催:白河文化交流館コミネス(指定管理者NPO法人カルチャーネットワーク)　お問合せ:白河文化交流館コミネス事業課 TEL(0248)23-5300

3/13土 5:00pm｜NHK交響楽団 in ICHIKAWA

市川市文化会館 大ホール

指揮:ヴァレンティン・ウリューピン　ピアノ:務川慧悟
ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調 作品73「皇帝」
チャイコフスキー／交響曲 第5番 ホ短調 作品64

主催・お問合せ:(公財)市川市文化振興財団 TEL(047)379-5111

3/14日 4:00pm｜The Symphony Hall 開館45周年記念 NHK交響楽団 大阪特別公演

ザ・シンフォニーホール

出演者・曲目は3月13日と同じ

主催:(株)ザ・シンフォニーホール　お問合せ:ザ・シンフォニー チケットセンター TEL(06)6453-2333

3/15月 6:30pm｜THEATRE MAdo 開館記念事業 NHK交響楽団 丸亀特別公演

シアターマド(丸亀市民会館) 大ホール

出演者・曲目は3月13日と同じ

主催:(公財)丸亀市福祉事業団　お問合せ:シアターマド(丸亀市民会館) TEL(0877)89-5877

3/20土 5:00pm｜NHK交響楽団 リッカルド・ミナーシ[指揮] 郷古廉[ヴァイオリン]

所沢市民文化センター ミューズ アークホール

指揮:リッカルド・ミナーシ　ヴァイオリン:郷古 廉
シューベルト／イタリア風序曲 第2番 ハ長調 D. 591
ブラームス／ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 作品77
ベートーヴェン／交響曲 第7番 イ長調 作品92

主催:(公財)所沢市文化振興事業団　お問合せ:ミューズチケットカウンター TEL(04)2998-7777

3/21日祝 3:00pm｜NHK交響楽団演奏会

愛知県芸術劇場 コンサートホール

出演者・曲目は3月20日と同じ

主催:愛知県芸術劇場((公財)愛知県文化振興事業団)、NHK名古屋放送局　お問合せ:愛知県芸術劇場 TEL(052)211-7552

4/4㊡3:00pm

東京・春・音楽祭2027 東京春祭ワーグナー・シリーズ vol. 18 《タンホイザー》(演奏会形式)

東京芸術劇場 コンサートホール

指揮:ローター・ケーニヒス
タンホイザー(テノール):サミュエル・サッカー　ヴォルフラム(バリトン):レオン・コーシャヴィッチ
ヴァルター(テノール):大槻孝志　ビーテロルフ(バス・バリトン):水島正樹　ハインリヒ(テノール):高橋 淳
ラインマール(バス・バリトン):山下浩司　エリーザベト／ヴェーヌス(ソプラノ):エリーザベト・タイゲ
合唱:東京オペラシンガーズ
ワーグナー／歌劇「タンホイザー」(演奏会形式)(全3幕／日本語字幕付)

主催:東京・春・音楽祭実行委員会　共催:NHK交響楽団　お問合せ:東京・春・音楽祭 チケットデスク TEL(050)3496-0202

オーチャード定期

横浜みなとみらいホール 大ホール

4/29㊌㊗3:30pm

指揮:エリム・チャン　ピアノ:鈴木愛美
チャイコフスキー／幻想序曲「ロメオとジュリエット」
チャイコフスキー／ピアノ協奏曲 第1番 変ロ短調 作品23
チャイコフスキー／バレエ音楽「白鳥の湖」作品20―「情景」「ワルツ」「小さい白鳥の踊り」
「オデットと王子のパ・ダクシオン」「フィナーレの情景」

7/4㊡3:30pm

指揮:熊倉 優　ピアノ:亀井聖矢
プロコフィエフ／ピアノ協奏曲 第3番 ハ長調 作品26
チャイコフスキー／バレエ音楽「眠りの森の美女」作品66(抜粋)

主催・お問合せ:Bunkamura TEL(03)3477-3244

桂冠名誉指揮者
ヘルベルト・ブロムシュテットさん逝去

NHK交響楽団桂冠名誉指揮者のヘルベルト・ブロムシュテットさんが、2026年11月4日、スウェーデン・エーテボリの自宅で逝去されました。享年99。

ブロムシュテットさんは、1981年11月に初めてN響の指揮台に立って以来、40年以上にわたり、200回を超える演奏会で共演を重ねました。
1986年に名誉指揮者、2016年には桂冠名誉指揮者に就任し、長年にわたりN響と深い信頼関係を築きました。
音楽への尽きることのない探究心、楽譜に真摯に向き合う姿勢、そしてオーケストラと聴衆に注いだ深い愛情。
そのすべては、N響にとってかけがえのない財産です。
マエストロから教えられたこと、そしてともに奏でた音楽の一つひとつは、これからもN響の中に生き続けます。
長きにわたり、ともに音楽を奏でることのできた歳月に心からの感謝を捧げるとともに、謹んで哀悼の意を表します。

NHK交響楽団



N響との最後の共演となった2025年10月25日の第2047回定期公演Cプログラム（2日目）から。最後にともに演奏した作品は、マエストロが深く愛したブラームス《交響曲第3番》でした

ブロムシュテットさんを追悼し、その功績とN響との歩みをふりかえる特集を、2027年1月号に掲載予定です。

特別支援・特別協力・賛助会員
Corporate Membership

特別支援

岩谷産業株式会社	代表取締役 社長兼CEO ｜ 間島 寛
三菱地所株式会社	執行役社長 ｜ 中島 篤
株式会社 みずほ銀行	頭取 ｜ 加藤勝彦
公益財団法人 渋谷育英会	理事長 ｜ 小丸成洋
東日本旅客鉄道株式会社	代表取締役社長 ｜ 喜勢陽一
NTT東日本株式会社	代表取締役社長 ｜ 澁谷直樹
東京海上ホールディングス株式会社	取締役社長 グループCEO ｜ 小池昌洋
株式会社ポケモン	代表取締役社長 ｜ 石原恒和

特別協力

BMWジャパン	代表取締役社長 ｜ 上野金太郎
全日本空輸株式会社	代表取締役社長 ｜ 平澤寿一
ヤマハ株式会社	代表執行役社長 ｜ 山浦 敦
ぴあ株式会社	代表取締役社長 ｜ 矢内 廣

賛助会員

- 常陸宮
- ㈱アートレイ
  代表取締役 ｜ 小森活美
- ㈱アイシン
  取締役社長 ｜ 吉田守孝
- ㈱アインホールディングス
  代表取締役社長 ｜ 大谷喜一
- 葵設備工事㈱
  代表取締役社長 ｜ 安藤正明
- ㈱あ佳音
  代表取締役社長 ｜ 遠山信之
- AXLBIT㈱
  代表取締役 ｜ 長谷川章博
- アサヒグループホールディングス㈱
  代表執行役社長 Group CEO ｜ 勝木敦志
- ㈱朝日工業社
  代表取締役社長 ｜ 髙須康有
- 朝日信用金庫
  理事長 ｜ 伊藤康博
- 有限責任 あずさ監査法人
  理事長 ｜ 山田裕行
- アットホーム㈱
  代表取締役社長 ｜ 鶴森康史
- イーソリューションズ㈱
  代表取締役社長 ｜ 佐々木経世
- EY新日本有限責任監査法人
  理事長 ｜ 松村洋季
- ㈱井口一世
  代表取締役 ｜ 井口一世
- 池上通信機㈱
  代表取締役社長 ｜ 清森洋祐
- ㈠財ITOH
  代表理事 ｜ 伊東忠俊
- 井村屋グループ㈱
  取締役社長 ｜ 大西安樹
- ㈲IL VIOLINO MAGICO
  代表取締役 ｜ 山下智之
- ㈱インターネットイニシアティブ
  代表取締役 会長執行役員 ｜ 鈴木幸一
- 内 聖美
- 内山貴史
- 永和不動産㈱
  代表取締役 ｜ 青井 修
- SMBC日興証券㈱
  代表取締役社長 ｜ 吉岡秀二
- ㈱NHKアート
  代表取締役社長 ｜ 石原 勉
- NHK営業サービス㈱
  代表取締役社長 ｜ 手島一宏
- ㈱NHKエデュケーショナル
  代表取締役社長 ｜ 有吉伸人
- ㈱NHKエンタープライズ
  代表取締役社長 ｜ 有吉伸人
- ㈻NHK学園
  理事長 ｜ 荒木美弥子
- ㈱NHKグローバルメディアサービス
  代表取締役社長 ｜ 松岡 烈
- ㈱NHK出版
  代表取締役社長 ｜ 江口貴之

・㈱NHKテクノロジーズ
代表取締役社長｜山口太一

・㈱NHKビジネスクリエイト
代表取締役社長｜椿 健一郎

・㈱NHKプロモーション
代表取締役社長｜見邨俊一

・NGK㈱
代表取締役社長｜小林 茂

・㈱NTTドコモ
代表取締役社長｜前田義晃

・㈱NTTファシリティーズ
代表取締役社長｜川口 晋

・荏原冷熱システム㈱
代表取締役｜加藤恭一

・FWD生命保険㈱
代表取締役社長 兼 CEO｜伊地知 剛

・MNインターファッション㈱
代表取締役社長｜吉本一心

・㈱エレトク
代表取締役｜間部惠造

・大崎電気工業㈱
代表取締役会長｜渡辺佳英

・㈱大塚商会
代表取締役社長｜大塚裕司

・大塚ホールディングス㈱
代表取締役社長 兼 CEO｜井上 眞

・㈱大林組
代表取締役社長｜佐藤俊美

・㈱オーバーシーズ
代表取締役｜尾田信夫

・オールニッポンヘリコプター㈱
代表取締役社長｜加藤幸洋

・岡崎悦子

・岡崎耕治

・小田急電鉄㈱
取締役社長｜鈴木 滋

・陰山建設㈱
代表取締役｜陰山正弘

・鹿島建設㈱
代表取締役社長｜桐生雅文

・㈱加藤電気工業所
代表取締役｜加藤浩章

・㈱金子製作所
代表取締役｜金子晴房

・カルチュア・エンタテインメント グループ㈱
代表取締役 社長執行役員｜中西一雄

・㈱関電工
取締役社長｜田母神博文

・㈱かんぽ生命保険
取締役兼代表執行役社長｜大西 徹

・キッコーマン㈱
代表取締役社長CEO｜中野祥三郎

・㈱KiteRa
代表取締役 執行役員 CEO｜植松隆史

・㈱教育芸術社
代表取締役｜市川かおり

・㈱共栄サービス
代表取締役｜半沢治久

・㈱共同通信会館
代表取締役専務｜小渕敏郎

・㈳共同通信社
社長｜沢井俊光

・キリンホールディングス㈱
代表取締役会長CEO｜磯崎功典

・㈻国立音楽大学
理事長｜重盛次正

・㈱グリーンハウス
代表取締役社長｜田沼千秋

・京王電鉄㈱
代表取締役社長 社長執行役員
都村智史

・京成電鉄㈱
代表取締役社長 社長執行役員
天野貴夫

・KDDI㈱
代表取締役社長CEO｜松田浩路

・㈼社団 恒仁会
理事長｜伊藤恒道

・㈱構造計画研究所ホールディングス
代表執行役｜服部正太

・コグニティブリサーチラボ㈱
代表取締役｜苫米地英人

・㈼財団 湖聖会
理事長｜湖山泰成

・小林弘侑

・佐川印刷㈱
代表取締役会長｜木下寧久

・佐藤弘康

・サフラン電機㈱
代表取締役｜藤崎貴之

・㈱サンセイ
代表取締役｜冨田佳佑

・サントリーホールディングス㈱
代表取締役社長｜鳥井信宏

・㈱ジェイ・ウィル・コーポレーション
代表取締役社長｜佐藤雅典

・JCOM㈱
代表取締役社長｜岩木陽一

・㈱シグマクシス・ホールディングス
代表取締役社長｜太田 寛

・㈱ジャパン・アーツ
代表取締役社長｜二瓶純一

・㈱集英社
代表取締役社長｜林 秀明

・㈱小学館
代表取締役社長｜相賀信宏

・㈱商工組合中央金庫
代表取締役社長｜関根正裕

・庄司勇次朗・惠子

・㈱ショットビジョン
代表取締役｜森 昇平

・ジョンソン・エンド・ジョンソン㈱

・㈱白川プロ
代表取締役｜白川亜弥

・㈲新赤坂健康管理協会
代表取締役社長｜小池 学

・信越化学工業㈱
代表取締役社長｜斉藤恭彦

・新角卓也

・新菱冷熱工業㈱
代表取締役社長｜加賀美 猛

・スカパーJSAT㈱
代表取締役 執行役員社長｜米倉英一

・㈱菅原
代表取締役会長｜古江訓雄

・㈱スターフィー
代表取締役｜加藤智也

・住友商事㈱
代表取締役 社長執行役員 CEO
上野真吾

・住友電気工業㈱
社長｜井上 治

・セイコーグループ㈱
代表取締役会長兼グループCEO
兼グループCCO｜服部真二

・聖徳大学
理事長・学長｜川並弘純

・西武鉄道㈱
代表取締役社長｜小川周一郎

・清和綜合建物㈱
代表取締役社長｜大串桂一郎

・関彰商事㈱
代表取締役会長｜関 正夫

・㈱セノン
代表取締役社長｜澤本 泉

・㈱ソニー・ミュージックエンタテインメント
代表取締役社長グループCEO｜岩上敦宏

・損害保険ジャパン㈱
取締役社長｜石川耕治

・第一三共㈱
代表取締役会長｜眞鍋 淳

・第一生命保険㈱
代表取締役社長｜隅野俊亮

・大成建設㈱
代表取締役社長｜相川善郎

・大日コーポレーション㈱
代表取締役社長兼グループCEO
鈴木忠明

・高砂熱学工業㈱
代表取締役社長｜小島和人

・㈱ダク
代表取締役｜福田浩二

・武石洋明

・㈱竹中工務店
取締役執行役員社長｜丁野成人

・㈱竹中土木
取締役社長｜竹中祥悟

・㈱田園興産
代表取締役｜田園直樹

・田中貴金属工業㈱
代表取締役社長執行役員
田中浩一朗

・田原 昇

・㈱ダブルスタンダード
代表取締役｜福永康寛

・チャンネル銀河㈱
代表取締役社長｜前田鎮男

・中央日本土地建物グループ㈱
代表取締役社長｜三宅 潔

・中外製薬㈱
代表取締役社長｜奥田 修

・㈱電通
代表取締役 社長執行役員｜松本千里

・㈱テンポプリモ
代表取締役｜中村聡武

・東海東京フィナンシャル・ホールディングス㈱
代表取締役会長｜石田建昭

・東海旅客鉄道㈱
代表取締役社長｜丹羽俊介

・東急㈱
取締役社長 社長執行役員｜堀江正博

・㈱東急コミュニティー
代表取締役社長｜速川智行

・東急プロパティマネジメント㈱
取締役社長｜平本和弘

・㈱東急文化村
代表取締役｜嶋田 創

・東信地所㈱
代表取締役｜堀川利通

・東武鉄道㈱
取締役社長｜都筑 豊

・桐朋学園大学
学長｜辰巳明子

・東北電力㈱
代表取締役社長｜石山一弘

・㈲外川ビル
代表取締役｜外川信晃

・鳥取末広座㈱
代表取締役｜西川八重子

・㈶TOPPAN三幸会
代表理事｜金子眞吾

・トヨタ自動車㈱
代表取締役社長｜近 健太

・内外施設工業グループホールディングス㈱
代表取締役社長｜林 克昌

・中銀グループ
代表｜渡辺蔵人

・中山武之

・日鉄興和不動産㈱
代表取締役社長｜三輪正浩

・日東紡績㈱
取締役会長｜辻 裕一

・㈱日放ツーリスト
代表取締役社長｜佐々木裕二

・㈱日本アーティスト
代表取締役｜幡野菜穂子

・㈱日本ヴァイオリン
代表取締役｜中澤創太

・㈱日本カストディ銀行
代表取締役社長｜土屋正裕

・㈱日本国際放送
代表取締役社長｜前田浩志

・㈱日本政策投資銀行
代表取締役会長｜太田 充

・日本たばこ産業㈱
代表取締役社長｜筒井岳彦

・日本通運㈱
代表取締役社長｜竹添進二郎

・日本通信㈱
代表取締役社長兼CEO｜福田尚久

・日本電気㈱
取締役 代表執行役社長兼CEO
森田隆之

・㈱日本取引所グループ
取締役兼代表執行役グループCEO
山道裕己

・日本BCP㈱
代表取締役社長｜角谷育則

・㈳日本放送協会共済会
理事長｜黒崎めぐみ

・日本みらいホールディングス㈱
代表取締役社長｜安嶋 明

・日本郵政㈱
取締役兼代表執行役社長｜根岸一行

・㈱ニトリホールディングス
代表取締役会長兼CEO｜似鳥昭雄

・㈱ニフコ
代表取締役社長｜柴尾雅春

・野村ホールディングス㈱
代表執行役社長｜奥田健太郎

・パナソニック ホールディングス㈱
代表取締役 社長執行役員 グループCEO
楠見雄規

・原田清朗

・㈱原田武夫国際戦略情報研究所
代表取締役｜原田武夫

・㈲パルフェ
代表取締役｜伊藤良彦

・ぴあ㈱
代表取締役社長｜矢内 廣

・㈱フォトロン
代表取締役｜瀧水 隆

・福島小松フォークリフト㈱
代表取締役｜四家英彦

・福田三千男

・富士通㈱
代表取締役社長｜時田隆仁

・㈱船井本社
代表取締役｜舩井勝仁

・古川宣一

・㈱朋栄ホールディングス
代表取締役｜清原克明

・㈱放送衛星システム
代表取締役社長｜寺田健二

・㈶放送文化基金
理事長｜濱田純一

・ホクト㈱
代表取締役｜水野雅義

・ポラリス・キャピタル・グループ㈱
代表取締役社長｜木村雄治
・前田工織㈱
代表取締役社長｜前田尚宏
・牧 寛之
・町田優子
・松本満里子
・丸紅㈱
取締役 代表執行役社長｜大本晶之
・溝江建設㈱
代表取締役｜溝江 弘
・三井住友海上火災保険㈱
代表取締役｜海山 裕
・㈱三井住友銀行
頭取｜福留朗裕
・三井住友信託銀行㈱
取締役社長｜米山学朋
・三井住友トラストクラブ㈱
代表取締役社長｜山口信明
・密山根成
・三橋産業㈱
代表取締役会長｜三橋洋之
・三橋洋之
・三原穂積
・㈱ミロク情報サービス
代表取締役社長｜是枝周樹
・㈻武蔵野音楽学園 武蔵野音楽大学
理事長｜福井直昭
・明治ホールディングス㈱
代表取締役社長CEO｜松田克也
・㈱明電舎
代表取締役 執行役員社長｜井上晃夫
・メットライフ生命保険㈱
代表執行役 会長 社長 最高経営責任者
ディルク・オステイン
・㈱目の眼
社主｜櫻井 恵
・森ビル㈱
代表取締役社長｜向後康弘
・森平舞台機構㈱
代表取締役｜森 健輔
・山田産業㈱
代表取締役｜山田裕幸
・㈱ヤマハミュージックジャパン
代表取締役社長｜松岡祐治
・ユニオンツール㈱
代表取締役会長｜片山貴雄
・吉野ゴム工業㈱
代表取締役社長｜伊藤吉秀
・米澤文彦
・㈱読売旅行
代表取締役社長｜岩上秀憲
・リコージャパン㈱
代表取締役 社長執行役員CEO｜笠井 徹
・料亭 三長
代表｜髙橋千善
・㈱リンレイ
代表取締役社長｜鈴木信也
・㈲ルナ・エンタープライズ
代表取締役｜白鳥正美
・ローム㈱
代表取締役社長 社長執行役員｜東 克己
・㈱ワールド航空サービス
代表取締役社長｜菊間陽介
・YKアクロス㈱
代表取締役社長｜堀内博人

（五十音順、敬称略）

NHK交響楽団への ご寄付について

NHK交響楽団は多くの方々の貴重なご寄付に支えられて、積極的な演奏活動を展開しております。定期公演の充実をはじめ、著名な指揮者・演奏家の招聘、意欲あふれる特別演奏会の実現、海外公演の実施など、今後も音楽文化の向上に努めてまいりますので、みなさまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

「賛助会員」入会のご案内

NHK交響楽団は賛助会員制度を設け、上記の方々にご支援をいただいており、当団の経営基盤を支える大きな柱となっております。会員制度の内容は次の通りです。

1. **会費**：一口50万円（年間）
2. **期間**：入会は随時、年会費をお支払いいただいたときから1年間
3. **入会の特典**：『フィルハーモニー』、「年間パンフレット」、「『第9』演奏会プログラム」等にご芳名を記載させていただきます。
N響主催公演のご鑑賞や会場リハーサル見学の機会を設けます。

遺贈のご案内

資産の遺贈（遺言による寄付）を希望される方々のご便宜をお図りするために、NHK交響楽団では信託銀行が提案する「遺言信託制度」をご紹介しております（三井住友信託銀行と提携）。相続財産目録の作成から遺産分割手続の実施まで、煩雑な相続手続を信託銀行が有償で代行いたします。まずはN響寄付担当係へご相談ください。

■当団は「公益財団法人」として認定されています。
当団は芸術の普及向上を行うことを主目的とする法人として「公益財団法人」の認定を受けているため、当団に対する寄付金は税制上の優遇措置の対象となります。

お問い合わせ	公益財団法人 NHK交響楽団「寄付担当係」	TEL：03-5793-8120

100th
NHKSO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

「N響100年」特別賛助会員

株式会社アイシン
株式会社あ佳音
朝日信用金庫
イーソリューションズ株式会社
岩谷産業株式会社
内 聖美
株式会社NHKテクノロジーズ
NGK株式会社
NTT東日本株式会社
カルチュア・エンタテインメント グループ株式会社
医療法人社団 恒仁会
小林 弘侑
佐藤 弘康
株式会社ジェイ・ウィル・コーポレーション
JCOM株式会社
信越化学工業株式会社
新菱冷熱工業株式会社
株式会社菅原
セイコーグループ株式会社
株式会社セノン
全日本空輸株式会社
東信地所株式会社
桐朋学園大学
一般財団法人TOPPAN三幸会
日東紡績株式会社
日本通信株式会社
日本みらいホールディングス株式会社
東日本旅客鉄道株式会社
古川 宣一
株式会社朋栄ホールディングス
ホクト株式会社
株式会社みずほ銀行
三菱地所株式会社
三橋産業株式会社
三橋 洋之
株式会社目の眼
米澤 文彦
株式会社読売旅行
料亭 三長
株式会社リンレイ
有限会社ルナ・エンタープライズ
YCC株式会社

（五十音順、敬称略）

100th
NHKSO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

「N響100年」個人サポーター

青木 恒雄
東 則仁
阿部 直子
阿部 直子
飯田 陽介
井口 一世
池田 太朗
石井 育子
石崎 隆
磯上 樹
板倉 由美子
市橋 敏行
出石 直
稲吉 務
今泉 美輪
歌川 博之
内山 その
内山 貴史
榎本 悠介
大川 啓太
大木 千秋
大谷 淳
大谷 明
大矢 菜穂子
岡井 良祐
岡本 誠
小川 芳幸
尾澤 勉
尾島 大樹

影井 良貴
加藤 充子
門脇 昌子
鎌谷 朝之
神谷 久覚
唐木田 信也
刈谷 敦子
川北 晃彦
川崎 昭久
川名 庸一
川鍋 義章
川原 真理子
川村 哲也
簡 妙芬
冠 和宏
岸 道郎
北見 欣一
亀徳 忠正
貴布根 弘篤
木村 達央
木村 素子
清谷 直樹
蔵並 慧
黒木 憲太郎
黒田 真二
河野 太
古賀 信行
湖口 和幸
小島 美智恵

児矢野 昌敬
小山 豊
今野 惠一郎
坂井 康柄
阪本 信次
櫻澤 仁
佐宗 孝樹
佐藤 圭子
佐藤 治彦
三戸 淳一
柴田 理佳子
白取 洋
新保 和浩
鈴木 忠明
鈴木 宏治
曽我 健
大門 匡
髙木 功介
高田 康裕
高橋 正好
高原 俊二
田島 大輔
立石 知宏
田中 治郎
田中 伸幸
田中 正彦
張 嘉淵
津久井 秀郎
津々木 孝

恒川 雄三
時岡 明弘
轟 晴美
富永 純子
冨永 龍太郎
長尾 公彦
中川 幸子
中村 秀哉
中村 幸雄
根本 昌代
根本 佳則
野島 浩司
野田 広
野武 一郎
野中 明人
配島 一善
林 尚美
原田 清朗
疋田 和代
檜山 隆
福井 真哉
福本 出
藤沼 竜也
藤森 博昭
舩井 勝仁
古川 澄兄
真木 太郎
牧 廣美
町田 優子

松澤 和男
松信 正志
三井田 健
水上 慶太
三橋 祐太
三村 啓
宮崎 宏史
村井 暁子
村井 正浩
村上 純子
本 敬之
森山 雅一郎
柳原 隆司
藪下 真平
山口 剛史
山崎 雅彦
山下 史雄
山本 英一
横尾 順
四元 俊英
渡邉 貴子
渡邊 健
渡辺 徹郎

（五十音順、敬称略）

みなさまの声をお聞かせください！

インターネットアンケートにご協力ください

ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。
ご協力をお願いいたします。

アクセス方法

STEP 1



**スマートフォンで右の
QRコードを読み取る。
またはURLを入力
https://www.nhkso.or.jp/
enquete.html**

STEP 2



開いたリンク先からアンケートサイトに入る

STEP 3



**アンケートに答えて(約5分)、
「送信」を押して完了！**

ほかにもご意見・ご感想がありましたらお寄せください。
定期公演会場の主催者受付にお持ちいただくか、
〒108-0074東京都港区高輪2-16-49 NHK交響楽団 フィルハーモニー編集までお送りください。

ふりがな		年齢	歳
お名前		TEL	

個人情報の取り扱いについて	ご提供いただいた個人情報は、必要な場合、ご記入者様への連絡のみに使用し、他の目的に使用いたしません。

キリトリ

PROGRAM

A

Concert No. 2077

NHK Hall

November
28 (Sat) **6:00pm**
29 (Sun) **2:00pm**

conductor	Charles Dutoit
piano	Martha Argerich
concertmaster	Kota Nagahara

In cooperation with Double Standard Inc.

NHKSO 100th Anniversary

Manuel de Falla
***El sombrero de tres picos*, ballet suite No. 2**
(***The Three-Cornered Hat***) [12′]

I Danza de los vecinos (The Neighbours' Dance)
II Danza del molinero (The Miller's Dance)
III Danza final (Final Dance)

Maurice Ravel
Piano Concerto G Major [22′]

I Allegramente
II Adagio assai
III Presto

— intermission (20 minutes) —

Hector Berlioz
***Symphonie fantastique*, Op. 14**
(***Fantastic Symphony***) [50′]

I Rêveries (Reveries) — Passions
II Un bal (A Ball)
III Scène aux champs (Scene in the Fields)
IV Marche au supplice (March to the Scaffold)
V Songe d'une nuit du sabbat (Dream of a Witches' Sabbath)

- All performance durations are approximate.

Artist Profiles

Charles Dutoit, conductor


©Priska Ketterer

Charles Dutoit has captivated audiences throughout the world for over six decades with his charismatic, elegant, passionate and idiomatic interpretations. He is Music Director Emeritus of the NHK Symphony Orchestra after having served as its Principal Conductor (1996–1998) and Music Director (1998–2003).

Born in Lausanne in 1936, he commenced his career as a violinist, before participating in the conducting masterclasses given by Herbert von Karajan at the

Lucerne Festival. He furthered his studies by attending the legendary Ernest Ansermet's rehearsals in Geneva. Under Ansermet's influence, he was able to cultivate his apprenticeship of the Ballets Russes composers: Stravinsky, Ravel and Debussy. In 1959, he made his professional conducting debut with the Orchestre de Chambre de Lausanne and Martha Argerich as soloist. During his first trip to the United States, he met Pierre Monteux and Charles Munch at the Tanglewood Music School.

Former Artistic Director and Principal Conductor of the Royal Philharmonic Orchestra, he enjoyed an artistic collaboration with the Philadelphia Orchestra for thirty-two years. He was Music Director of the Orchestre symphonique de Montréal for twenty-five years and held the same position with L'Orchestre National de France for ten years. His interest in mentoring young artists has led to positions as Music Director of the Pacific Music Festival in Sapporo and the Verbier Festival Orchestra.

His latest collaboration with the NHK Symphony Orchestra took place in 2025 with two programs featuring Messiaen and Holst as well as celebrating Ravel's anniversary year. This marks his first appearance with Martha Argerich and the orchestra in Japan in three decades. The second program will have him focus on Beethoven as a part of the orchestra's project commemorating the 200th anniversary of the German composer's death.

Martha Argerich, piano



Martha Argerich is considered one of the most prominent pianists in the world. Born in Buenos Aires in 1941, she took her first piano lessons at age 5. She continued her studies in Europe with Bruno Seidlhofer, Friedrich Gulda, Nikita Magaloff, Madeleine Lipatti, and Stefan Askenase. She won both the Bolzano (Busoni) and Geneva Piano Competitions, and followed suit with Warsaw's Chopin Piano Competition.

These years, she furthers her long-standing and fruitful collaborations with top orchestras alongside eminent conductors such as Charles Dutoit, Daniel Barenboim and Zubin Mehta, while chamber music remains a significant part of her musical life.

To help young musicians, she became General Director of the MUSIC FESTIVAL Argerich's Meeting Point in Beppu in Japan in 1998. In 1999 she created the International Piano Competition and Festival Martha Argerich in Buenos Aires and, in 2002, the Progetto Martha Argerich in Lugano. In 2018, she launched the Martha Argerich Festival in Hamburg.

This is her long-awaited first appearance with the NHK Symphony Orchestra in almost a quarter century since 2001 when she joined their European tour with Dutoit. For this reunion, again alongside Dutoit, she will perform Ravel's Concerto in G major of which her interpretation has long been highly acclaimed.

Manuel de Falla (1876–1946)

El sombrero de tres picos, ballet suite No. 2 (*The Three-Cornered Hat*)

Andalusian composer Falla is an eloquent testimony to the intimate relations between the French and Spanish music worlds at the turn of the century. He studied in Madrid with Felipe Pedrell who led modern Spanish musical nationalism. From 1907 to 1914, Falla stayed in Paris where he met Maurice Ravel, Claude Debussy and Russian impresario Sergei Diaghilev. The outbreak of World War made Falla return home to continue to compose in Madrid.

El sombrero de tres picos (*The Three-Cornered Hat*) is from Falla's second Madrilenian period. Based on an Andalusian folk tale, this two-act ballet was first staged in London in 1919 by Ballets Russes, Diaghilev's dance company, with the set and costume by Pablo Picasso. Set in an Andalusian town, the comedy features the Magistrate wearing a "three-cornered hat," the symbol of power. Act 1 has the lecherous Magistrate visit the mill to court the Miller's beautiful Wife. She and her husband succeed in sending the womanizer away.

Prepared by Falla himself, the Suite No. 2 consists of music from Act 2. It starts with people celebrating Saint John's Eve at the mill: ***The Neighbours' Dance*** (seguidillas, a lively triple-time Spanish folk dance) is followed by the passionate ***The Miller's Dance*** (farruca, a flamenco). The gathering is then interrupted by the sudden arrest of the Miller, which is plotted by the Magistrate who wants to seduce the Miller's Wife. The trouble comes to a boisterous happy ending for the Miller couple dancing with their neighbours a jota, a rhythmical Spanish folk dance often accompanied by castanets (***Final Dance***).

Maurice Ravel (1875–1937)

Piano Concerto G Major

A son of a Swiss father and a Basque mother, Ravel was born in the French Basque Country by the Spanish border before moving to Paris. In 1889, the teenage composer was impressed by Russian works conducted by Nikolai Rimsky-Korsakov and gamelan music from Indonesia, both he heard at the Paris Universal Exposition. Ravel's curiosity was still burning in his adulthood, as he was greatly inspired by jazz and spirituals during his first trip to the USA in 1928, though he had been familiar with jazz since before.

The G-Major Concerto was mostly composed in 1929–1931, his later years. Jazzy and bluesy idioms appearing in the outer lively movements remind us of his preceding voyage to the New World. The jovial first movement has an unexpected starting signal by the crack of a whip immediately followed by the piccolo playing the first theme. Some say that this theme is in a style of Basque folk music and the calmer second theme given later by piano is Spanish. The tranquil second movement is in a languid, waltz-like time. It is

opened with a lone monologue by piano and ended with a high-pitched trill by the same instrument. Compact and dense, the finale begins with a recurrent brass cadence. This movement shows thoroughly the soloist's virtuosity in a mirthful and brilliant way.

Hector Berlioz (1803–1869)

Symphonie fantastique, Op. 14 (*Fantastic Symphony*)

Berlioz's *Symphonie fantastique* (*Fantastic Symphony*) was premiered in Paris in 1830, only three years after Ludwig van Beethoven died. Back in 1828, the young man had heard the Classical titan's Third and Fifth symphonies in Paris. The French Romanticist recalled this electrifying experience later, writing "Beethoven opened before me a new world of music, as Shakespeare had revealed a new universe of poetry." His *Symphonie fantastique* eventually "opened a new world" too, as a pivotal transition from the Classical symphony to the Romantic symphonic (tone) poem, a programmatic genre that Franz Liszt (1811–1886) would soon invent.

Symphonie fantastique is indeed programmatic, as the subtitle ("Episode in the Life of an Artist…in Five Sections") and the program notes* penned by the composer clarify it. Moreover, it is autobiographical because "an Artist" is Berlioz himself who then had an obsessive one-sided love for the Irish Shakespearean actress Harriet Smithson. To depict the "fantastical" or even eccentric program, Berlioz employed a recurrent melody (representing the artist's beloved) that he called "idée fixe" (fixed idea) foretelling Richard Wagner's leitmotifs. Also, Berlioz's novel instrumentation under the influence of the operatic scoring was ideal for his fanciful drama.

I *Rêveries* (*Reveries*)—*Passions* has the pensive introduction followed by the faster section announcing the idée fixe on a flute and violins: the young protagonist falls in love with a dream woman at first sight. Sumptuous **II *Un bal* (*A Ball*)** is often said to be the first to utilize harps in the history of symphony, while pastoral **III *Scène aux champs* (*Scene in the Fields*)** supplies an ingenious acoustic perspective offering a dialogue between an on-stage English horn and an off-stage oboe. **IV *Marche au supplice* (*March to the Scaffold*)** lets the broken-hearted artist, overdosed on opium, dream of himself killing his beloved and thus being sent to the scaffold. Dead, he sees himself in his **V *Songe d'une nuit du sabbat* (*Dream of a Witches' Sabbath*)** being visited by the beloved's spirit which is pictured as a grotesque idée fixe on a shrill clarinet sound. The backstage bells tolling the hero's death precede the brassy, demoniac *Dies Irae* (*Day of Wrath*) melody from the Catholic Mass for the Dead.

*The versions written in 1845 and in 1855 are slightly different.

Kumiko Nishi

English-French-Japanese translator based in the USA. Holds a MA in musicology from the University of Lyon II, France and a BA from the Tokyo University of the Arts (Geidai).

PROGRAM

B

Concert No. 2079

Suntory Hall

December

10(Thu) **7:00pm**

11(Fri) **7:00pm**

conductor	Maxim Emelyanychev
cello	Nicolas Altstaedt
concertmaster	Julien Szulman◆

◆**Julien Szulman:** Julien Szulman began playing the violin at the age of 5. In 2006, he obtained his DFS from the Conservatoire National Supérieur de Musique et de Danse de Paris (CNSMDP), with unanimous acclaim, and continued his studies with Jean-Jacques Kantorow and Pierre-Laurent Aimard in the advanced cycle at the CNSMDP. After a Konzertexamen at the Hochschule für Musik Hanns Eisler Berlin in Stephan Picard's class, he obtained his doctorate in "Research and Practice" from the CNSMDP-Sorbonne Université in 2024. As concertmaster, he has played with numerous international orchestras, including the London Symphony Orchestra, the Mito Chamber Orchestra, the Orchestre de la Suisse Romande and the Orchestre de Paris. He is currently a violin professor at the CNSMDP.

Wolfgang Amadeus Mozart
Die Zauberflöte*, opera K. 620 — Overture** (The Magic Flute***) [7′]

Miroslav Srnka
***Smoke* for Cello and Orchestra (2025/2026)** [**NHKSO 100th Anniversary Commissioned Work / Co-commission with the Czech Philharmonic / World Premiere**][28′]

— intermission (20 minutes) —

Felix Mendelssohn Bartholdy
Symphony No. 3 A Minor Op. 56, *Scottish* [40′]

I Andante con moto
— Allegro un poco agitato
II Vivace non troppo
III Adagio
IV Allegro vivacissimo

- All performance durations are approximate.

Artist Profiles

Maxim Emelyanychev, conductor



The recipient of the highly prestigious Herbert von Karajan Prize, Russian conductor Maxim Emelyanychev inspires a true spirit of adventure among his collaborators. Born in 1988 in Nizhny Novgorod, he made his conducting debut at age 12 and studied under Gennady Rozhdestvensky at the Moscow Tchaikovsky Conservatoire.

He has been Principal Conductor of the Scottish Chamber Orchestra

(SCO) since 2019, with his contract being extended through 2031. With the SCO, he has appeared at the BBC Proms and toured across Europe. At the Edinburgh International Festival, he led widely acclaimed concert performances of Mozart's *Die Zauberflöte* and *Così fan tutte*.

He leads the period-instrument ensemble Il Pomo d'Oro from the harpsichord. Since his appointment as Principal Conductor in 2013, he, now Chief Conductor, has undertaken numerous international concert tours and recordings with the ensemble, including high-profile collaborations with artists such as mezzo soprano Joyce DiDonato and countertenor Jakub Józef Orliński.

Principal Guest Conductor of the Swedish Radio Symphony Orchestra as well, he enjoys guest-conducting top orchestras, including the Berliner Philharmoniker, Royal Concertgebouw Orchestra, London Philharmonic Orchestra, and the Orchestra of the Age of Enlightenment to name a few.

Alongside his conducting career, playing keyboard instruments—harpsichord, fortepiano, and modern piano—remains a central part of his musical life.

This is his debut with the NHK Symphony Orchestra. He will be entrusted to give the world premiere of Miroslav Srnka's concerto commissioned by the orchestra to celebrate its 100th anniversary. The program will include the overture of *Die Zauberflöte*, the opera that Emelyanychev successfully conducted at London's Covent Garden, and Mendelssohn's Symphony No. 3 *Scottish* that he recorded with SCO to critical praise.

Nicolas Altstaedt, cello



The recipient of the Beethoven-Ring Bonn 2015 and a 2010–12 BBC New Generation Artist, German-French cellist and conductor Nicolas Altstaedt is one of the most sought after and versatile artists today.

Since his highly acclaimed debut with the Wiener Philharmoniker and Gustavo Dudamel at the Lucerne Festival, recent collaborations as a soloist include the Swedish Radio Symphony Orchestra with Maxim Emelyanychev, Royal Concertgebouw Orchestra with Matthias Pintscher and the Philharmonia Orchestra with Paavo Järvi. He also regularly performs on period instruments.

As a conductor he has forged close partnerships with the Orchestre Philharmonique de Radio France, Münchener Kammerorchester and the Scottish Chamber Orchestra, and is Artist in Association with Tapiola Sinfonietta.

Collaborations with composers such as Wolfgang Rihm, Thomas Adès, Jörg Widmann, Fazıl Say and Sofia Gubaidulina consolidate his reputation as an outstanding interpreter of contemporary music.

In 2012, he became Artistic Director of the Lockenhaus Chamber Music Festival succeeding Gidon Kremer. In 2014 he was chosen by Ádám Fischer to be Artistic Director of the Haydn Philharmonie until 2021.

At this second appearance with the NHK Symphony Orchestra since 2019, he will give the world premiere of Miroslav Srnka's new Cello Concerto, honoring the composer's recommendation for the soloist, under the baton of Maxim Emelyanychev with whom the cellist regularly shares the stage.

Wolfgang Amadeus Mozart (1756–1791)

Die Zauberflöte, opera K. 620 — Overture (*The Magic Flute*)

This year, the world celebrates the 270th anniversary of the birth of Austrian composer Wolfgang Amadeus Mozart. *Die Zauberflöte* (*The Magic Flute*) was completed in 1791, almost two months before he passed away in Vienna. It is a Singspiel (meaning a sung play), a popular form of German-language opera with spoken dialogues. He composed it for the theatrical troupe of Emanuel Schikaneder who wrote the libretto and also played the buffoonish and lovable role of Papageno at the premiere in Vienna. As is well known, both Mozart and Schikaneder were members of the Freemasons, and the influence of this fraternal brotherhood has frequently been pointed out in the music and the intricate plot.

Indeed, the story starts with Prince Tamino's rescue mission to save Princess Pamina at the request of her mother, The Queen of the Night, as Pamina is held captive by the devilish high priest Sarastro. A magic flute is handed to Tamino for his protection when he sets out for Sarastro's temple. However, as the narrative develops, it is revealed that The Queen is actually wicked and Sarastro is benevolent.

The home key of the opera is E-flat major, which has three flats in its key signature suggesting the most sacred number for Freemasons, three. The overture opens with solemn three E-flat-major chords, symbolically. The faster lively section in sonata form has the tuneful second theme introduced by a flute, evoking Tamino's magical attribute.

Miroslav Srnka (1975–)

Smoke for Cello and Orchestra (2025/2026)

[NHKSO 100th Anniversary Commissioned Work / Co-commission with the Czech Philharmonic / World Premiere]

One of today's most sought-after composers, Miroslav Srnka was born in Prague, a city that loved and was loved by above-mentioned Mozart. The Czech composer studied musicology at Charles University in Prague and composition at the Prague Academy of Performing Arts. The recipient of the Ernst von Siemens Music Foundation Composer's Prize 2009, he cemented his international reputation in 2016 when his opera *South Pole* was premiered at the Bayerische Staatsoper in Munich under Kirill Petrenko, featuring Rolando Villazón and Thomas Hampson in the title roles.

Srnka's works have been performed by the world's leading interpreters and orchestras under conductors such as Peter Eötvös, Jakub Hrůša, Susanna Mälkki, David Robertson and Klaus Mäkelä. Last year, Klangforum Wien and the Arnold Schönberg Choir gave the world premiere of his new opera *Voice Killer* at the MusikTheater an der Wien.

In June 2023, the NHK Symphony Orchestra, Tokyo (NHKSO) presented the world premiere of his *Superorganisms* (2022), a work for large orchestra co-commissioned by the NHKSO, Berliner Philharmoniker, Los Angeles Philharmonic, Orchestre de Paris and

the Czech Philharmonic. The piece was first performed in his home country at the Prague Spring Festival's closing concert. His program notes for *Smoke* for Cello and Orchestra, newly composed to mark the NHKSO's 100th anniversary, are available on page 66.

Felix Mendelssohn Bartholdy (1809–1847)

Symphony No. 3 A Minor Op. 56, *Scottish*

Born into a wealthy and cultured family, Felix Mendelssohn loved to travel. One of his representative works, the *Scottish* Symphony was a child of this habit. However, the gestation took over ten years from conception, a rare delay for the German composer known to be a rapid writer. The story goes back to the spring of 1829 when he, then twenty years old, set off on his first visit to England. He was welcomed by Londoners as a composer, conductor and soloist giving piano concerts and conducting his own orchestral works, and he then enjoyed his summer vacation touring Scotland.

Having a gift for painting, he sketched diverse scenery in his journal during this journey. Scotland's nature stimulated his musical talent too, so he would soon compose the concert overture *The Hebrides* in 1830. During the trip, he wrote to his family enclosing the opening bars of "my Scottish Symphony" (his own words) he conceived while visiting the Holyrood Palace in Edinburgh where Queen Mary once lived. According to the letter, the ruins of the chapel beside the palace inspired the young man, and this musical embryo would give its first cry in 1842 as the introduction of his *Scottish* Symphony, the last work he completed in the genre. It was premiered the same year in Leipzig and dedicated to Queen Victoria of Great Britain and Ireland.

All four movements are continuously performed without pause. The pensive melody heard during the overcast introduction is associated with several important elements of the whole symphony (such as the first themes of the opening and second movements, the second theme of the final movement), which was progressive at the time. The first theme of the scherzo-like second movement particularly deserves special attention, as this merry tune sung by the clarinet is written in a pentatonic (five-note) scale with lively dotted rhythm reminding us of Scottish folksongs. The intense final movement in 2/2 meter has an unexpected A-major coda in 6/8 with a new melodic idea which is also derived from the introduction's theme. That's how the composer rounds off the organic structure of this masterly symphony.

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 61

On the Occasion of the World Premiere of *Smoke* for Violoncello and Orchestra

As I wrote *Overheating* for the centenary of the LA Phil in 2018, and as I saw the huge California fires during its premiere on the horizon, I was thinking we would learn from those events and move on.

But I am far too naive.
We do not seem to care.

As I have just finished *Smoke* for violoncello and orchestra, and as I am writing this text, we are in the third heatwave of this year at the end of July, and all too many temperature records have already been broken this year. Unprecedented wildfires are raging in many countries.

There is full coverage of satellite images of our planet during the last years, available on the internet for everyone.
The wildfire smoke is well visible in these images*.



©Kaupo Kikkas

This makes the global warming clearly visible from space, but somehow it is not visible enough for our minds to change sufficiently.
We carry on with our lives, silently fighting the concept of loss that must come if we were to solve this immense issue.

Climate change is a structural change.
And I take it literally for my music.

My way of finding connections to the topics of my pieces is always inwards, looking for structural consequences for sound, not primarily for political messages. I am deeply interested in the possibilities of musical structures.
With the most recent computational possibilities, they seem to be newly unlimited again.

Smoke is structurally immensely interesting.
It is the wind and its dynamics made visible.
We all know the seemingly 2D pictures of cars in aerodynamic tunnels.

Miroslav Srnka's new composition *Smoke* for Violoncello and Orchestra, commissioned by the NHK Symphony Orchestra to mark its 100th Anniversary, will receive its world premiere in the orchestra's subscription concerts Program B in December 2026.
We are pleased to present a message from the composer.

The real smoke from fires is a fascinating dynamic and fluid 3D structure, organically moving in time, working with curving, shaping, density, velocity...

All these parameters and possibilities are central for my music.

Smoke can be one tiny, intricately curved line from the first spark.
It can also be an everything-engulfing dense mass bulging in all directions.
There is repetition of movements in the streams of smoke that come again and again in similar forms but never in exactly the same way.

In *Smoke* the solo cello works as smoke to the glow of the orchestra.
As smoke can announce a first small flame that swallows again the previous line of smoke, so can a huge cloud of smoke engulf the entire blaze.
They eat each other in both the long and the short term.

In this way the solo instrument both initiates and loses itself in the mass and glow of the orchestral sound throughout the piece.

The piece works in three different cycles of growth and disappearing by reflecting those unique qualities of smoke in sound.
The structures themselves transform so extremely and so far that they become just noise, as smoke can simply dissolve in the color of the background.

This cycle of smoke and flames seems to be now nearly uninterrupted for our foreseeable future.

04/08/2026
Miroslav Srnka
https://www.srnka.cz/

*https://worldview.earthdata.nasa.gov/

PROGRAM

C

Concert No.2078

NHK Hall

December

4(Fri) 7:00pm

5(Sat) 2:00pm

conductor — Charles Dutoit | for a profile of Charles Dutoit, see p. 58

concertmaster — Julien Szulman | for a profile of Julien Szulman, see p. 62

NHKSO 100th Anniversary:
Ludwig van Beethoven Symphony Cycle 4

Ludwig van Beethoven
Symphony No. 4 B-flat Major Op. 60 [38′]

I Adagio — Allegro vivace
II Adagio
III Allegro vivace — Un poco meno allegro
IV Allegro ma non troppo

— intermission (20 minutes) —

Ludwig van Beethoven
Symphony No. 7 A Major Op. 92
[43′]

I Poco sostenuto — Vivace
II Allegretto
III Presto
IV Allegro con brio

- All performance durations are approximate.

Program Notes

Ludwig van Beethoven (1770–1827)

Symphony No. 4 B-flat Major Op. 60

This program is a part of the musical journey through all of Ludwig van Beethoven's nine symphonies that the NHK Symphony Orchestra, Tokyo (hereafter NHKSO) has invited us on during the current 2026/27 season. The project is to mark the 200th anniversary of the German composer's death and the 100-year milestone of the NHKSO since its 1926 foundation. In 1927, the newborn orchestra commemorated the 100th anniversary of Beethoven's death performing seven of his symphonies and three of his piano concertos. The NHKSO has since deepened its relationship with his great musical legacy, particularly through the full cycles of his symphonies in 1936–37 and in 1970.

Compared to his teacher Joseph Haydn(1732–1809) who left us a significant number of symphonies, Beethoven composed only a handful. Each of his nine symphonies are

nevertheless monumental and represent watershed moments, not only in his career but also in music history. For many composers after Beethoven, writing the "first" symphony was a synonym with confronting a nemesis, not to mention Johannes Brahms (1833–1897) who spent over twenty years to complete his No. 1.

Although every work of Beethoven is not unimportant, most experts agree that his odd numbered symphonies are more audacious and tense than his relatively moderate even numbered ones. And the fact that his Fourth is not the exception was foregrounded by Robert Schumann (1810–1856), a great admirer of the work, referring to it as "a slender Greek maiden between two Nordic giants," namely the revolutionary Third (*Eroica*) and the intensely dramatic Fifth (*Destiny*).

Beethoven dedicated the Fourth to the Silesian Count Franz von Oppersdorff. In 1806 when the composer visited the nobleman, the latter's private orchestra played the former's Second—thus an even numbered symphony—in welcome. As it was Oppersdorff's favorite work, the wealthy music lover commissioned the guest to write a new one for him. Beethoven subsequently completed the Fourth the same year, but some say that it had already been finished when he received the commission.

The Fourth's home key is B-flat major. However, Beethoven begins the work with a mysterious, harmonically obscured introduction following the example of Haydn. With a dramatic crescendo, this preface flows into the main vivacious section of the first movement in sonata form. Its crisp first theme is given by strings, while the floaty second theme is firstly entrusted to the winds. The lyrical and sometimes plaintive character of the next slow movement is possessed with the dotted rhythm introduced by the second violins at the start. The following scherzo-like energetic movement is cast in A–B–A–B–A form. It is, rhythmically speaking, highly ingenious as if anticipating the composer's exploration in the Seventh (discussed below). The finale in sonata form is not seemingly a sonata, as the first theme's perpetual motion with sixteenth notes dominates the movement throughout. The end is prepared wittily by pregnant silences and a brief slow-motion moment.

Ludwig van Beethoven

Symphony No. 7 A Major Op. 92

Beethoven has been profoundly admired and even awed by his successors like Franz Schubert (1797–1828) and Schumann, especially because of his dauntless spirit and insatiable pursuit of musical innovations. Beethoven's nine symphonies, all disparate, show us concisely how he always set off for new horizons at every work to bring unprecedented ideas to fruition.

Beethoven's epochal Fifth Symphony *Destiny* (1808) became the model among models of an abstract symphony sculpted with highly elaborate motivic development for all composers to come, while his unusual five-movement Sixth *Pastorale* (1808) having official programmatic content, blazed the trail for future programmatic symphonies with a genuine Romantic spirit such as *Symphonie fantastique* (1830) by Hector Berlioz (1803–1869) and acres of symphonic (tone) poems. The following Seventh is, of all Beethoven's symphonies, arguably the most closely connected with the notion of dance, displaying an

unrelenting rhythmic vitality. We can hear why Richard Wagner (1813–1883), another great admirer of Beethoven, extolled this piece with the celebrated expression, "apotheosis of dance."

Completed in 1812, the Seventh was premiered the next year in Vienna under the composer's own baton alongside his patriotic orchestral piece *Wellington's Victory* (often called the *Battle Symphony*) in the same program. The first sonata movement of the Seventh is opened with a large Apollonian, peaceful introduction before the light-hearted main section dominated by repeated dotted rhythm starts. The second movement in a steady duple meter is a sort of march, which is in a way, the most fundamental form of dance. Its slower tempo and obsessively repeated note in a dark mood seem to evoke a funeral procession. The third movement is a brisk scherzo with two contrasting sections alternating with each other (A–B–A–B–A). The fourth movement, again in sonata form, is a Dionysian wild finale distinctive of a repeated rhythm with an accent on the second beat. The conclusion is probably the most euphoric in the history of symphonies.

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 61

The Subscription Concerts Program 2026–27

2026 12

A

Concert No. **2077**

November
28 (Sat) 6:00pm
29 (Sun) 2:00pm
Program A of the December subscription concerts will be held in November.
NHK Hall

NHKSO 100th Anniversary

Falla *El sombrero de tres picos*, ballet suite No. 2 (*The Three-Cornered Hat*)
Ravel Piano Concerto G Major
Berlioz *Symphonie fantastique*, Op. 14 (*Fantastic Symphony*)

Charles Dutoit, conductor
Martha Argerich, piano

	Ordinary	Youth
S	17,000	8,500
A	14,500	7,000
B	11,500	5,500
C	9,500	4,500
D	7,500	3,500
E	5,500	2,500

B

Concert No. **2079**

December
10 (Thu) 7:00pm
11 (Fri) 7:00pm

Suntory Hall

Mozart *Die Zauberflöte*, opera K. 620 – Overture (*The Magic Flute*)
Srnka *Smoke* for Cello and Orchestra [NHKSO 100th Anniversary Commissioned Work / Co-commission with the Czech Philharmonic / World Premiere]
Mendelssohn Symphony No. 3 A Minor Op. 56, *Scottish*

Maxim Emelyanychev, conductor
Nicolas Altstaedt, cello

	Ordinary	Youth
S	12,000	6,000
A	10,000	5,000
B	8,000	4,000
C	6,500	3,250
D	5,500	2,750

C

Concert No. **2078**

December
4 (Fri) 7:00pm
5 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

NHKSO 100th Anniversary: Beethoven Symphony Cycle 4

Beethoven Symphony No. 4 B-flat Major Op. 60
Beethoven Symphony No. 7 A Major Op. 92

Charles Dutoit, conductor
- Beethoven's Symphony No. 9 *Choral* is scheduled to be performed at the "Beethoven '9th' Symphony Concert" at the end of 2026 (conductor: Marek Janowski).

	Ordinary	Youth
S	12,000	6,000
A	10,000	5,000
B	8,000	3,600
C	6,500	3,250
D	5,500	1,900
E	3,300	1,600

2027 01

A

Concert No. **2080**

January
16 (Sat) 6:00pm
17 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

Mahler Symphony No. 9 D Major

Fabio Luisi, conductor

	Ordinary	Youth
S	13,000	6,500
A	11,000	5,200
B	8,500	4,000
C	7,000	3,500
D	5,600	2,000
E	3,500	1,700

B

There will be no subscription concerts of Program B in January, February, April, May, and June due to renovation of Suntory Hall.

C

Concert No. **2081**

January
22 (Fri) 7:00pm
23 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

The 200th Anniversary of Beethoven's Death: Piano Concerto Cycle 1

Sørensen *Evening Land* (2017)
Beethoven Piano Concerto No. 1 C Major Op. 15
Nielsen Symphony No. 6, *Sinfonia semplice*

Fabio Luisi, conductor
Alessandro Taverna, piano

	Ordinary	Youth
S	12,000	6,000
A	10,000	5,000
B	8,000	3,600
C	6,500	3,250
D	5,500	1,900
E	3,300	1,600

2027 02

A

Concert No. **2082**

February
6 (Sat) 6:00pm
7 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

Bach / Webern *Musikalisches Opfer*, BWV 1079 – *Ricercar à 6 voci* (*The Musical Offering – 6 Voice Fugue*)
Mahler *5 Lieder nach Texten von Friedrich Rückert* (*5 Songs after Friedrich Rückert*)
Schönberg Chamber Symphony No. 2 Op. 38
Schubert Symphony No. 7 B Minor D. 759, *Unvollendete* (*Unfinished Symphony*)

Antonello Manacorda, conductor **Christian Gerhaher**, baritone*
*Artist has been changed from initially scheduled Andrè Schuen (baritone).

	Ordinary	Youth
S	10,000	5,000
A	8,500	4,000
B	6,500	3,100
C	5,400	2,550
D	4,300	1,500
E	2,200	1,000

B

There will be no subscription concerts of Program B in January, February, April, May, and June due to renovation of Suntory Hall.

C

Concert No. **2083**

February
12 (Fri) 7:00pm
13 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

The 200th Anniversary of Beethoven's Death: Piano Concerto Cycle 2

Schumann *Genoveva*, opera Op. 81 – Overture
Beethoven Piano Concerto No. 2 B-flat Major Op. 19
Hisatada Otaka *Ashiya Otome*, symphonic poem Op. 9
Panufnik Symphony No. 2, *Sinfonia Elegiaca*

Tadaaki Otaka, conductor
Yunchan Lim, piano

	Ordinary	Youth
S	10,000	5,000
A	8,500	4,000
B	6,500	3,100
C	5,400	2,550
D	4,300	1,500
E	2,200	1,000

A NHK Hall
Sat. 6:00pm (doors open at 5:00pm)
Sun. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

B Suntory Hall
Thu. 7:00pm (doors open at 6:20pm)
Fri. 7:00pm (doors open at 6:20pm)

C NHK Hall
Fri. 7:00pm (doors open at 6:00pm)
Sat. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

2027 04

A

Concert No. **2084**

April
10 (Sat) 6:00pm
11 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

Mendelssohn Violin Concerto E Minor Op. 64
R. Strauss *Eine Alpensinfonie* Op. 64 (*An Alpine Symphony*)

Fabio Luisi, conductor
James Ehnes, violin

Ordinary	Youth
S 13,000	S 6,500
A 11,000	A 5,200
B 8,500	B 4,000
C 7,000	C 3,500
D 5,600	D 2,000
E 3,500	E 1,700

B

There will be no subscription concerts of Program B in January, February, April, May, and June due to renovation of Suntory Hall.

C

Concert No. **2085**

April
23 (Fri) 7:00pm
24 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

The 200th Anniversary of Beethoven's Death: Piano Concerto Cycle 3

Dvořák *The Noon Witch*, symphonic poem Op. 108
Beethoven Piano Concerto No. 3 C Minor Op. 37
Unsuk Chin *Subito con forza*
Shostakovich Symphony No. 9 E-flat Major Op. 70

Elim Chan, conductor
Alice Sara Ott, piano

Ordinary	Youth
S 10,000	S 5,000
A 8,500	A 4,000
B 6,500	B 3,100
C 5,400	C 2,550
D 4,300	D 1,500
E 2,200	E 1,000

2027 05

A

Concert No. **2086**

May
8 (Sat) 6:00pm
9 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

Grieg Piano Concerto A Minor Op. 16
Stenhammar Symphony No. 2 G Minor Op. 34

Paavo Järvi, conductor
Denis Kozhukhin, piano

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 3,600
C 6,500	C 3,250
D 5,500	D 1,900
E 3,300	E 1,600

B

There will be no subscription concerts of Program B in January, February, April, May, and June due to renovation of Suntory Hall.

C

Concert No. **2087**

May
21 (Fri) 7:00pm
22 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

The 200th Anniversary of Beethoven's Death: Piano Concerto Cycle 4

Lully *Le bourgeois gentilhomme*, ballet
(*The Bourgeois Gentleman*/Excerpts)
Beethoven Piano Concerto No. 4 G Major Op. 58
R. Strauss *Der Bürger als Edelmann*, suite Op. 60
(*The Bourgeois Gentleman*)

Kent Nagano, conductor
Till Fellner, piano

Ordinary	Youth
S 11,000	S 5,500
A 9,500	A 4,500
B 7,600	B 3,500
C 6,000	C 2,800
D 5,000	D 1,800
E 3,000	E 1,400

2027 06

A

Concert No. **2088**

June
5 (Sat) 6:00pm
6 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

Mozart Symphony No. 35 D Major K. 385, *Haffner*
Bruckner Symphony No. 3 D Minor, *Wagner-Symphonie*
(Third Version / 1889)

Tugan Sokhiev, conductor

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 3,600
C 6,500	C 3,250
D 5,500	D 1,900
E 3,300	E 1,600

B

There will be no subscription concerts of Program B in January, February, April, May, and June due to renovation of Suntory Hall.

C

Concert No. **2089**

June
18 (Fri) 7:00pm
19 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

The 200th Anniversary of Beethoven's Death: Piano Concerto Cycle 5

Beethoven Piano Concerto No. 5 E-flat Major Op. 73, *Emperor*
R. Strauss *Ein Heldenleben*, symphonic poem Op. 40 (*A Hero's Life*)

Thomas Guggeis, conductor
Kirill Gerstein, piano

Ordinary	Youth
S 11,000	S 5,500
A 9,500	A 4,500
B 7,600	B 3,500
C 6,000	C 2,800
D 5,000	D 1,800
E 3,000	E 1,400

(tax included)

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

N響関連のお知らせ

100th NHKSO NHK SYMPHONY ORCHESTRA TOKYO

「N響100年」記念ページはこちらから

N響ホームページ

「N響100年」記念ページ

https://www.nhkso.or.jp/100th/

N響100年を記念するおもな公演・事業や首席指揮者ファビオ・ルイージのメッセージが紹介されているほか、N響のこれまでの歩みをまとめた年表や読み物をご覧いただけます。また「演奏記録アーカイブ／資料アーカイブ」では、N響100年の全演奏会の記録、そしてN響が所蔵する歴史的資料の目録の一部をデータベースとして公開。検索にも対応します。

WEB連載

NHK交響楽団のあゆみ 1945–2026 岩野裕一

THE HISTORY OF NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

WEB連載「NHK交響楽団のあゆみ」はこちらから

N響100年を記念した連載企画「NHK交響楽団のあゆみ」をホームページでご覧になれます。執筆は、『王道楽土の交響楽』『日本のピアノ100年』などの著書でも知られる、音楽評論家・編集者の岩野裕一氏。終戦後の「NHK交響楽団」への改称から、創立100年となる2026年までのN響の歴史を追いかけます。https://www.nhkso.or.jp/news/HistoricalOverview_contents.html

伝えるチカラ

NHK財団

◎公共メディアNHKを社会へ
◎社会貢献事業で、次世代の未来を応援！

NHK財団は、
子法人の「NHK交響楽団」と共に、
社会貢献事業を進めていきます。

ステラnet

NHK財団の最新情報はこちらから

N響の社会貢献

音楽は人々を元気づけ、ひとときの安らぎを与えてくれます。N響はコンサートホールを飛び出して、さまざまな場所、さまざまな人たちに美しい音色をお届けし、広く社会に貢献していきます。

子どもたちの未来を育む

子どもと大人が夏休みに名曲を楽しめる「**N響ほっとコンサート**」、N響練習所のある東京都港区の保育園児を招いてN響メンバーがじかに音楽の楽しさを伝える「**N響といっしょ！ 音を楽しむ!!**」などを開催。また折にふれて全国各地の小学校、中学校、高校を訪れてコンサートや指導を行い、近年はリモート技術を活用したクリニックなども開催しています。音楽や音楽家に身近に接してもらうことで豊かな心を育む取り組みに、これからも力を入れていきます。

優れた音楽家を育てる

1950年代、指揮を実践的に学ぶ場として設けたのが「**指揮研究員**」の制度です。有望な若手指揮者をオーケストラの現場に迎え入れ、国内外の巨匠たちとの音楽づくりに携わる機会を提供。日本のクラシック音楽界を担う人材を数多く輩出しています。また2003年に創設された「**N響アカデミー**」では、オーディションで選抜された受講生が、楽員からのレッスン、リハーサルや公演の参加などを通じてトレーニングを積んでいます。修了生はN響をはじめ国内外のオーケストラで活躍しています。

指揮研究員
井手 奏、佐久山修太

N響アカデミー在籍者
ヴァイオリン：中川紗優梨
クラリネット：白井宏典　打楽器：菊池幸太郎
（2026年12月1日現在）

地域の人たちとつながる

全国のさまざまな団体、自治体から要請を受けて、クラシック音楽の普及や文化振興のお手伝いをしています。幼稚園、コミュニティ施設などで演奏したり、生徒たちにレッスンをするなど、地元に密着した活動を行っています。最近は各地の放送局のイベントに参加して演奏する機会も増えています。NHKのテレビとラジオで日曜のお昼に放送される『NHKのど自慢』では、審査の結果を伝える「鐘」をN響の打楽器奏者が担当することもあります。

病院や福祉施設、被災地に届ける

病院や**高齢者施設**を楽員が訪れてミニコンサートを開き、入院する患者さん、看病するご家族、お年寄りの方たちに安らぎのひとときをお届けしています。また**被災地**にも出向き、演奏を通じて現地の人たちの応援にも力を入れています。2024年1月に起きた能登半島地震では、翌月にN響の楽員15人が石川県を訪問し、4地域・6か所の避難所でミニコンサートを開きました。

国際交流の輪を広げる

1960年の「世界一周演奏旅行」以来、**海外での演奏**にも力を入れてきました。近年は2025年5月にオランダ・アムステルダムでの「マーラー・フェスティバル」に参加するなど、世界最高峰の舞台に招かれることが増えています。一方国内では、首都圏の大学などと連携して、私たちが主催する公演への**外国人留学生**招待にも取り組んでいます。

異なる分野の専門家と連携する

デジタル活用や**医療**などの新しい課題に、異なる分野の人たちと手をたずさえて取り組んでいます。2022年11月の「NTT東日本 N響コンサート」では、離れていても同じ場所にいるように感じられるような映像・音声接続を実現する「IOWN APN関連技術」の検証実験に協力。リアルタイム・リモート演奏を成功させました。一方コロナウイルスへの対策がまだ手探りだった2020年7月、業界団体が行った「演奏中の飛沫」を調べる実験に多くの楽員や職員を派遣。これにより舞台上の安全な楽器配置などがわかり、業界の統一したマニュアル作りに役立ちました。

NHK ONE



©NHK・dwarf

番組の同時配信、見逃し・聴き逃し配信、ニュースの記事や動画などの情報を
テレビ※やスマホ・タブレット、パソコンで

※インターネット接続に対応したテレビ

WEBサイト(HP)

NHK ONE

アプリ

NHK ONE

NHK ONE ニュース・防災

NHK ONE for School

NHK ONE らじる★らじる

NHKゴガク 語学講座

世帯ですでに受信契約を締結されている場合は、別途のご契約や追加のご負担は必要ありません
(「NHK ONE らじる★らじる」など、ラジオ関連サービスは受信契約の対象外です)

NHK ONE ここがイチオシ!

総合・Eテレの番組をネットで



命と暮らしを守る情報が充実



各地の"ローカル番組"も配信



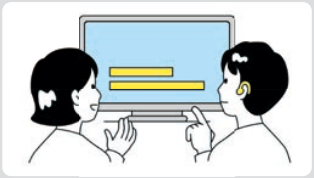
放送から1週間は何度でも見放題



"キッズモード"や教育コンテンツも



字幕放送で見たい人に「ぴったり字幕」



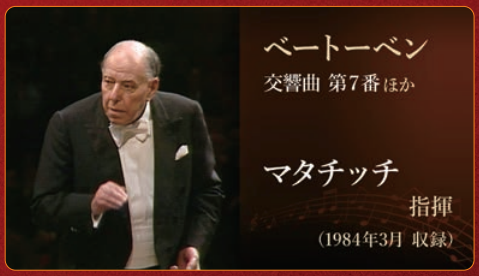
ドラマ、ドキュメンタリーなど名作20,000本以上配信中！

NHKオンデマンド

有料動画配信サービス

NHK交響楽団の名演を
いつでも、どこでも、何度でも













懐かしの「N響アワー」から「クラシック音楽館」まで
世界的マエストロによる演奏を 毎月配信中！

まるごと見放題パック
月額990円 税込

NHKオンデマンドコールセンター
0570-083333
携帯電話・IP電話 03-6743-6777
受付時間 9:30〜22:00

番組ラインアップなどの詳細は
公式ウェブサイトでチェック！
https://www.nhk-ondemand.jp

NHK WORLD PREMIUM

NHKワールド・プレミアムは、旅行中の日本人または海外在住者向け日本語チャンネルです。
*日本国内では視聴することができません。海外にいらっしゃる間に視聴できます。

NHK



ご存知ですか?

海外出張、海外旅行を計画されている方へ

海外で、ニュース・情報番組の同時配信と見逃し配信が、無料で視聴可能!



*視聴可能は毎日５時間程度

海外にいる日本人のみなさまの安全・安心のため、ニュース・情報番組は、NHKのウェブサイトで、無料で同時配信と見逃し配信を行っています。

特に見逃し配信は、海外でも時差を気にせず、NHKニュースをご覧いただけます。

視聴方法はこちら ▶▶

*日本国内では視聴することができません。
海外にいらっしゃる間に視聴できます。

海外にお住まいの方には

NHKのニュースや情報番組、ドラマ、子ども番組、音楽番組などを24時間編成で有料で放送しています。世界のおよそ80の国・地域の約2,400万世帯以上で視聴できます。

[エリア][国/地域]の順に選択の上、お住まいの地域で見られる放送事業者を検索してください。



利用できるサービスを探す

お住まいの国/地域を選択

エリア 選択してください/Select

国 選択してください/Select

NHK WORLD JAPAN

NHK WORLD-JAPAN

NHK WORLD-JAPAN is the international service of Japan's public media organization. It provides a global audience with information about Japan and Asia on TV, radio, and online. Content is available in English and other languages.



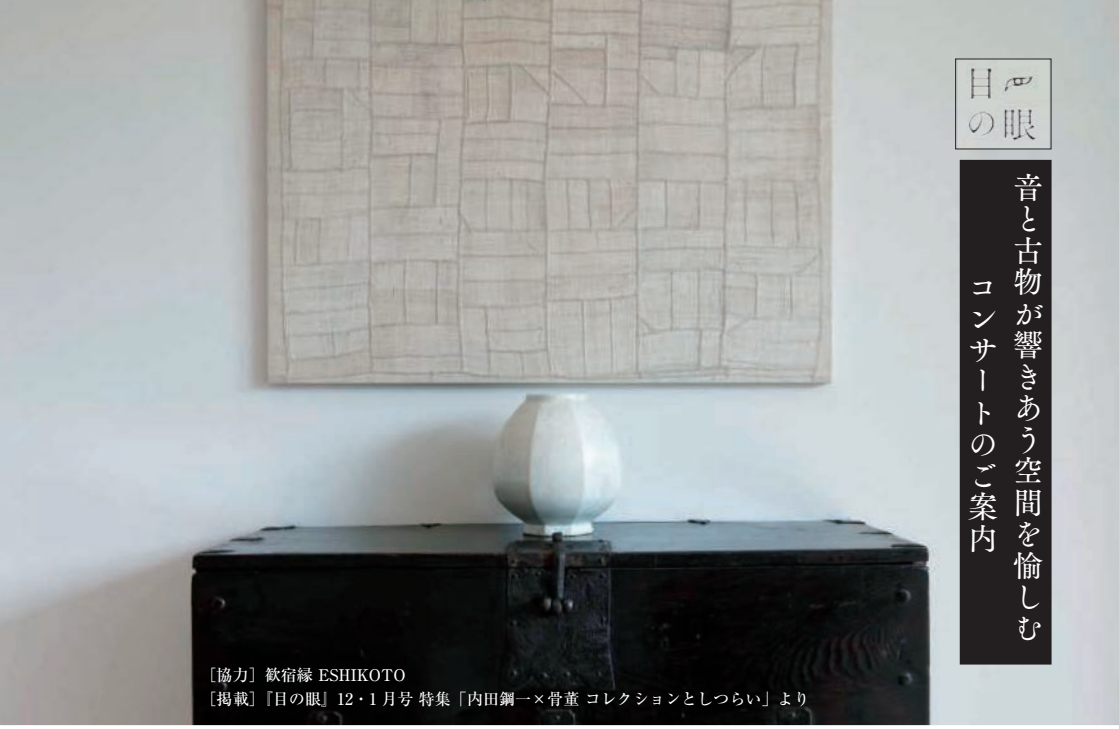
Disaster and safety-related information is updated instantly, via emergency alert screens on the website and push notifications on the app.

Get real-time alerts from our app.

■Earthquake, Tsunami, and Weather Emergency Warnings
Available in: English, Chinese, French, Hindi, Indonesian, Korean, Portuguese, Russian, Spanish, Thai, Vietnamese

■Breaking News (English)

(iPhone, Android)
▲Download here. ※App settings are required.



［協力］歓宿縁 ESHIKOTO
［掲載］『目の眼』12・1月号 特集「内田鋼一×骨董 コレクションとしつらい」より

目の眼

音と古物が響きあう空間を愉しむ コンサートのご案内

NHK交響楽団第1コンサートマスターの長原幸太と、読売日本交響楽団ソロ・ヴィオラ奏者の鈴木康浩を中心に、日本のオーケストラ界を牽引する精鋭7人により結成された弦楽七重奏団《NY Seven》。2027年4月から全4回にわたり、東京・王子ホールでベートーヴェンの交響曲 弦楽七重奏版の全曲シリーズをスタートする（編曲 佐々木絵理）。ベートーヴェンの壮大なシンフォニーが七つの弦へ凝縮された名編曲の完成版をお聴きいただきたい。

［出演］
長原幸太（ヴァイオリン／NHK交響楽団第1コンサートマスター）
佐久間聡一（ヴァイオリン）
鈴木康浩（ヴィオラ）
猶井悠樹（ヴィオラ／NHK交響楽団第1ヴァイオリン）
上森祥平（チェロ）
奥泉貴圭（チェロ）
山崎 実（コントラバス）

NY Seven
ベートーヴェン交響曲
弦楽七重奏版 全曲シリーズ

王子ホール（東京 銀座）
各回 19時開演

第1回　2027. 4/19（月）
第5番 ハ短調「運命」Op.67
第6番 ヘ長調「田園」Op.68

第2回　2027. 7/15（木）
第3番 変ホ長調「英雄」Op.55
第8番 ヘ長調 Op.93

第3回＆第4回 2028年予定

各回 全席指定 7,000円
第1回＆第2回セット 12,000円

2026.12/9（水）発売
第1回券・第1回＆第2回セット券
王子ホールチケットセンター、チケットぴあ
＊セット券の取扱は王子ホールチケットセンターのみ

最新情報は
公式SNSをチェック！
Instagram/Facebook

主催・問合せ：株式会社目の眼
artevent@menomeonline.com

強く、
楽しく、
わたしらしく。

Change,
Challenge,
Create.



「現場の課題を解決する」学際的なプログラム

Field Linkage®（フィールド・リンケージ®）

学部・学科を超えた学際的な学びや、社会との連携によるプログラムで、多面的・多角的な視点や問題解決能力を養い、新たな価値を創造する力を育成します。

聖徳大学・聖徳大学短期大学部オリジナルの先進的な教育プログラム

Business Field Linkage®（ビジネス・フィールド・リンケージ®）

高度な専門的学びを実社会（ビジネス社会）と結び付け主体的に活躍していくための実践的能力を身につけるプログラム。
新しい時代に活躍できるリーダーを育成します。

6年連続!!
2026年 実就職率ランキング
全国女子大学
[卒業生500名以上]
第1位
実就職率97.8%
（卒業生694名、就職者数669名、大学院進学者10名）
※大学通信調べ（2026年7月23日発表）
実就職率（%）＝就職者数÷（卒業生（修了者）数－大学院進学者数）×100

自立するチカラをはぐくむ女性総合大学。

聖徳大学
聖徳大学短期大学部

SEITOKU

〒271-8555 千葉県松戸市岩瀬550 TEL.047-365-1111（大代表）
https://www.seitoku-u.ac.jp/

聖徳大学
音楽学部（女子）

聖徳大学大学院
音楽文化研究科
［博士前期・後期課程］（共学）

～聖徳大学グループ～

聖徳大学大学院　聖徳大学教職大学院　聖徳大学　聖徳大学短期大学部　聖徳大学幼児教育専門学校
光英VERITAS高等学校　聖徳大学附属取手聖徳女子高等学校　光英VERITAS中学校
聖徳大学附属取手聖徳女子中学校　聖徳大学附属小学校　聖徳大学三田幼稚園　聖徳大学八王子幼稚園
聖徳大学多摩幼稚園　聖徳大学附属幼稚園　聖徳大学附属第二幼稚園　聖徳大学附属成田幼稚園
聖徳大学附属浦安幼稚園　聖徳大学オープン・アカデミー（SOA）

+5 聖徳 SEITOKU Challenge

春東京祭
Spring Festival in Tokyo

東京・春・音楽祭 2027
SPRING FESTIVAL IN TOKYO



指揮：ローター・ケーニヒス
Conductor：Lothar Koenigs

タンホイザー：サミュエル・サッカー
Tannhäuser：Samuel Sakker

ヴォルフラム：レオン・コーシャヴィッチ
Wolfram von Eschenbach：Leon Košavić

ヴァルター：大槻孝志
Walther von der Vogelweide：Takashi Otsuki

ビーテロルフ：水島正樹
Biterolf：Masaki Mizushima

ハインリヒ：高橋 淳
Heinrich der Schreiber：Jun Takahashi

ラインマール：山下浩司
Reinmar von Zweter：Koji Yamashita

エリーザベト／ヴェーヌス：エリーザベト・タイゲ
Elisabeth／Venus：Elisabeth Teige

管弦楽：NHK交響楽団
Orchestra：NHK Symphony Orchestra, Tokyo

合唱：東京オペラシンガーズ
Chorus：Tokyo Opera Singers

／他
/etc.

東京春祭ワーグナー・シリーズ vol.18

タンホイザー（演奏会形式）

全3幕／ドイツ語上演・日本語字幕付

2027 4.4［日］15:00 東京芸術劇場コンサートホール

S ¥28,500　A ¥24,000　B ¥20,000　C ¥16,000　D ¥12,500　E ¥9,500　U-25 ¥3,500

チケットのお申込み・お問合せ　一般発売　11月29日［日］10:00　※U-25は2月12日［金］12:00発売（音楽祭公式サイト限定取扱）

東京・春・音楽祭オンライン・チケットサービス
www.tokyo-harusai.com
（座席選択可・会員登録無料）

東京・春・音楽祭チケットデスク
050-3496-0202（月・水・金ならびにチケット発売日 10:00-13:00）

チケットぴあ　https://w.pia.jp/t/harusai/
東京芸術劇場ボックスオフィス
https://www.geigeki.jp/t/　0570-010-296
WEBチケットN響　https://nhkso.pia.jp/
N響ガイド　0570-02-9502

主催：東京・春・音楽祭実行委員会　共催：公益財団法人 NHK交響楽団
後援：一般財団法人日本ワーグナー協会　助成：公益社団法人企業メセナ協議会　社会創造アーツファンド

100th
NHKSO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

N響第9

NHK交響楽団
ベートーヴェン「第9」演奏会
Beethoven 9th Symphony Concerts



指揮
マレク・ヤノフスキ
Marek Janowski, conductor

日本を愛し、N響を鍛えた巨匠「N響第9」で引退

N響100年特別企画
ベートーヴェン交響曲全曲演奏 5

ベートーヴェン／交響曲 第9番 ニ短調 作品125「合唱つき」
Beethoven Symphony No. 9 D Minor Op. 125, *Choral*

2026年
12/17（木）7:00pm | 12/18（金）7:00pm | 12/19（土）2:00pm
12/20（日）2:00pm | 12/22（火）7:00pm*

NHKホール NHK Hall

*22日公演はNHK／NHK厚生文化事業団主催のチャリティーコンサートです。プログラムは他の日程と同一です。

ソプラノ：森谷 真理

メゾ・ソプラノ：杉山 由紀

テノール：村上 公太

バス・バリトン：トマシュ・コニェチュニー

合唱：東京オペラシンガーズ
合唱指揮：冨平 恭平

主催：NHK／NHK交響楽団
主催（22日）：NHK／NHK厚生文化事業団

協賛：みずほ証券株式会社／はごろもフーズ株式会社／株式会社明電舎

お問い合わせ
N響ガイド 0570-02-9502
（営業日・営業時間はN響ホームページでご確認ください）
NHK厚生文化事業団：03-3476-5955
（22日公演のみ、平日10:00am～6:00pm）

チケット発売開始

9月6日（日）10:00am
N響定期会員先行発売日：9月1日（火）10:00am

料金（税込）

一般	S ¥17,000	A ¥13,500	B ¥10,000	C ¥7,500	D ¥5,000
ユーススチケット（29歳以下）	S ¥8,500	A ¥6,750	B ¥5,000	C ¥3,750	D ¥2,500

※定期会員は一般料金から10%割引

前売所

WEBチケットN響	nhkso.pia.jp	e+（イープラス）	eplus.jp/nhkso
N響ガイド	0570-02-9502	ローソンチケット	l-tike.com/nhkso
チケットぴあ	pia.jp/t/nhkso		

●ユーススチケット（29歳以下）はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。●定期会員割引・先行発売のお取り扱いはWEBチケットN響およびN響ガイドのみとなります。●車いす席をご希望の方は、N響ガイド（22日公演のみNHK厚生文化事業団）へお問い合わせください。●未就学児のご入場はお断りしています。●やむを得ない理由で出演者等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。●公演に関する最新情報はN響ホームページでご確認ください。

かんぽ生命 *presents*

N響第九

Special Concert

100th NHKSO NHK SYMPHONY ORCHESTRA TOKYO



© 平舘平/東京・春・音楽祭2026

日本を愛し、N響を鍛えた巨匠「N響第九」で引退

バッハ／「高き天よりわれは来れり」によるカノン風変奏曲 BWV 769
Bach / Canonic Variations on *Vom Himmel hoch, da komm ich her* BWV 769
オルガン：勝山雅世
Masayo Katsuyama, *organ*

N響100年特別企画　ベートーヴェン交響曲全曲演奏5

交響曲 第9番 ニ短調 作品125「合唱つき」

Beethoven Symphony No. 9 D Minor Op. 125, *Choral*



2026年12月23日(水) 7:00pm | サントリーホール

Wednesday, December 23, 2026 | Suntory Hall

一般：S ¥20,000　A ¥16,500　B ¥13,000　C ¥9,000
ユースチケット(29歳以下)：S ¥10,000　A ¥8,200　B ¥6,500　C ¥4,500
※全て税込価格

チケット発売開始：9月6日(日) 10:00am
N響定期会員先行発売日：9月1日(火) 10:00am
※定期会員は一般料金から10%割引

JP INSURANCE かんぽ生命

指揮：マレク・ヤノフスキ

Marek Janowski, *conductor*

ソプラノ：森谷真理 | メゾ・ソプラノ：杉山由紀
テノール：村上公太 | バス・バリトン：トマシュ・コニエチュニー
合唱：東京オペラシンガーズ Tokyo Opera Singers, *chorus*
合唱指揮：冨平恭平 Kyohei Tomihira, *chorus master*

Mari Moriya, *soprano*



Yuki Sugiyama, *mezzo soprano*



Kota Murakami, *tenor*



Tomasz Konieczny, *bass-baritone*

前売所
- WEBチケットN響 ..... nhkso.pia.jp
- N響ガイド 0570-02-9502
- サントリーホールチケットセンター ..... 0570-55-0017 suntory.jp/HALL
- チケットぴあ ..... pia.jp/t/nhkso
- e+(イープラス) ..... eplus.jp/nhkso
- ローソンチケット ..... l-tike.com/nhkso

WEBチケット N響

お問い合わせ：N響ガイド 0570-02-9502
(営業日・営業時間はN響ホームページでご確認ください)

●ユースチケット(29歳以下)はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。● 定期会員割引・先行発売のお取り扱いはWEBチケットN響およびN響ガイドのみとなります。● 車いす席をご希望の方は、N響ガイドへお問い合わせください。●N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。●未就学児のご入場はお断りしています。●やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。● 公演に関する最新情報はN響ホームページでご確認ください。

主催：NHK交響楽団
特別協賛：株式会社かんぽ生命保険

本家本元・N響の演奏で味わう、時代と人物を彩る「大河ドラマ」テーマ曲集

NHKSO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA TOKYO

N響 大河ドラマ & 名曲コンサート

Taiga Drama & Masterpiece Concert

ソプラノ：川越未晴
Miharu Kawakoshi

合唱：慶應義塾ワグネル・ソサイエティー男声合唱団・女声合唱団
KEIO Wagner Society Male Choir and Female Chorus

司会：田添菜穂子
Nahoko Tazoe



特別ゲスト：
高橋英樹
Hideki Takahashi

◉第1部：大河ドラマ編

武田信玄（1988／山本直純）
西郷どん（2018／富貴晴美）
篤姫（2008／吉俣 良）
八重の桜（2013／坂本龍一）
花燃ゆ（2015／川井憲次）
どうする家康（2023／稲本 響）
江 ～姫たちの戦国～（2011／吉俣 良）
赤穂浪士（1964／芥川也寸志）
べらぼう ～蔦重栄華乃夢噺～（2025／ジョン・グラム）
逆賊の幕臣（2027／大間々 昂）

◉第2部：「河」「川」にちなんだクラシック名曲選

歌劇「ホヴァンシチナ」
―前奏曲「モスクワ川の夜明け」（ムソルグスキー／ショスタコーヴィチ編）
ポルカ・フランセーズ「ネヴァ川」（J. シュトラウスII世）
交響詩「4つの伝説」から「トゥオネラの白鳥」（シベリウス）
ワルツ「ローレライ・ラインの調べ」（J. シュトラウスI世）
「アルルの女」組曲 第2番から「ファランドール」（ビゼー）

2027
2.24［水］7:00pm
すみだトリフォニーホール
（錦糸町駅 徒歩5分）



管弦楽：NHK交響楽団
NHK Symphony Orchestra, Tokyo

指揮：下野竜也
（NHK交響楽団正指揮者）
Tatsuya Shimono

©Shin Yamagishi

主催：NHK／NHK交響楽団

発売開始日　2026年11月24日［火］10:00am（一般）
2026年11月20日［金］10:00am（定期会員先行）

料金　税込／全席指定

	S席	A席	B席	C席
一般	¥13,000	¥11,000	¥8,000	¥5,000
ユースチケット(29歳以下)	¥6,500	¥5,500	¥4,000	¥2,500

● 定期会員は一般料金から10%割引　● C席はステージの一部が見えづらい席となります。

前売所

WEBチケットN響　https://nhkso.pia.jp
N響ガイド　0570-02-9502　チケットぴあ　pia.jp/t/nhkso
e+（イープラス）　eplus.jp/nhkso　ローソンチケット　l-tike.com/nhkso
トリフォニーホールチケットセンター　03-5608-1212
https://yyk1.ka-ruku.com/triphony-s

※ユースチケット（29歳以下）はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。
　初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。
※定期会員割引・先行発売のお取り扱いはWEBチケットN響およびN響ガイドのみとなります。
※車いす席についてはN響ガイドにお問い合わせください。
※N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。
※未就学児のご入場はお断りしています。

お問い合わせ：N響ガイド 0570-02-9502
営業時間：10:00am～5:00pm（定休日：土・日・祝日）
※東京都内での主催公演開催日は、曜日に関わらず10:00am～開演時刻まで営業いたします。
※電話受付のみの営業となります。

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。
　公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。
※公演に関する最新情報はN響ホームページでご確認ください。

nhkso.or.jp　Follow us on

100th NHKSO NHK SYMPHONY ORCHESTRA TOKYO

NHKSO 100th Anniversary Commemoration: New Year Concerts 2027

Fabio Luisi, conductor
Camilla Nylund, soprano
Klaus Florian Vogt, tenor
NHK Symphony Orchestra, Tokyo

創立100年記念 N響ニューイヤーコンサート

オペラの名匠ルイージと声楽界の至宝たちが贈る、ワーグナーとオペレッタの華麗なるガラ・コンサート

名門歌劇場シェフも歴任するマエストロ
指揮◉ファビオ・ルイージ（NHK交響楽団 首席指揮者）

世界の歌劇場を魅了する至高のプリマドンナ
ソプラノ◉カミラ・ニールンド

ワーグナー歌唱の理想を体現する名テノール
テノール◉クラウス・フロリアン・フォークト

管弦楽◉NHK交響楽団

2027
1月10日（日）3:00pm
1月11日（月・祝）3:00pm
NHKホール

January
10 (Sun) 3:00pm
11 (Mon) 3:00pm
NHK Hall

主催：NHK／NHK交響楽団



チケット発売中

演奏曲目は本誌「特別公演」ページをご覧ください。

前売所

WEBチケットN響 …… nhkso.pia.jp
N響ガイド …… 0570-02-9502
チケットぴあ …… pia.jp/t/nhkso
e+（イープラス） …… eplus.jp/nhkso
ローソンチケット …… l-tike.com/nhkso

WEBチケットN響

- ユースチケット（29歳以下）はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。
- 定期会員割引・先行発売のお取り扱いはWEBチケットN響およびN響ガイドのみとなります。
- 車いす席についてはN響ガイドにお問い合わせください。
- N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。

料金（税込）

一般 | S ¥15,000 | A ¥12,000 | B ¥9,500 | C ¥7,500 | D ¥6,000
ユースチケット（29歳以下） | S ¥7,500 | A ¥6,000 | B ¥4,750 | C ¥3,750 | D ¥3,000
（定期会員は一般料金から10%割引）

お問い合わせ

N響ガイド 0570-02-9502 営業時間：10:00am～5:00pm（定休日：土・日・祝日）
※東京都内での主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am～開演時刻まで営業
※電話受付のみの営業

- 未就学児のご入場はお断りしています。
- やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。
- 公演に関する最新情報はN響ホームページでご確認ください。

託児コーナー

お申し込み：コンビスマイル株式会社
メール：smile.gh@combi.co.jp（件名を「N響託児コーナー申し込み」と記載ください）
TEL：03-6231-6382（平日9:00am～5:00pm／土・日・祝日は休業）
※公演日の2営業日前までにお申し込みください（有料／定員になり次第受付終了）
※満2歳～未就学の方がご利用いただけます

Philharmony 12
フィルハーモニー
第98巻第9号
ISSN 1344-5693
定価300円
消費税込み



ご近所のイワタニは、
世界のイワタニです。



イワタニは、世界からガスを運び
安全と安心のネットワークで、
カセットガスやLPガスなど
さまざまなカタチに変えて日本全国にお届け。
今日も見えないところで、
あなたの暮らしを支えます。

Iwatani
岩谷産業株式会社